

2016年度学長裁量経費Ⅲ

ボランティア活動への参加促進と 活動組織の立上げに向けて

2016年度報告書

放送大学愛知学習センター

目 次

はじめに	1
第1章 2016年度の活動記録	3
1) 訪問学習会	
(1) 名古屋国際センター	
2) 公開講演会	
(1) 名古屋市社会福祉協議会	
(2) 半田市教育委員会生涯学習課	
3) 活動報告会	
(1) メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン 名古屋支部	
(2) 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT	
第2章 今後の地域貢献活動の進め方について	9
1) これまでの経緯	
2) 活動を通して見出された成果と課題	
3) 今後の活動の方向性について	
第3章 添付資料	14
1) アンケート結果	
(1) 訪問学習会	
(2) 公開講演会	
(3) 活動報告会	
2) WG 打合せ会の記録	
3) 学生講演会への支援	
おわりに（編集後記）	55

はじめに

「アクション・プラン 2012」には放送大学が目指す中期的な目標が提示され、そこには学習センターの取組む活動として二つの具体的なプランが盛り込まれている。その一つが「学習センターの地域リーダー育成と地域貢献」である。学習センターが地域の抱える課題に向き合う活動を地域の多様な団体等と協働して進めるとともに、核となって取組めるリーダーの育成支援を通して地域に貢献することを目指すものである。この目標を視野に置きながら、愛知学習センターは2014年度から3年間の計画で地域貢献に係る活動を学生と一緒に取組むことにより、学習センターの地域貢献活動のあり方や方向性を見出すことに努めてきた。そのため、これまでの3年間にわたる活動を一つの区切りとし、次のステップへの手がかりを提供するため、2016年度の活動内容と分析結果をここに報告書としてまとめる。

愛知学習センターはこれまで地域貢献活動に取組んだ実績がないことから、第1年目の2014年度は学生の地域貢献活動の実態を把握するため、在学生へのアンケート調査とヒヤリング調査を行なった。これらの調査から、学生の活動に関する経験、分野、組織、動機や課題および学習センターへの要望などの全体像を明らかにし、その結果を踏まえて、2015年度の活動の方向性と実施計画を策定した。なお、2014年度事業の企画、調査、分析等は7名の学生が中心になって実施し、その結果は報告書「学生による地域貢献活動の実態把握とそれをベースにした人材育成」として取りまとめられた。

2015年度事業は前年度の分析結果において強い要望があった、①地域貢献活動の情報提供、②活動に必要な知識、スキルおよび姿勢などの学習や意見交換の機会提供、③地域の活動主体と連携した企画を軸に活動を行なった。具体的には、学習センター内に情報コーナーの設置、学生講演会（同窓会主催）と公開講演会の開催、面接授業の開講およびNPO法人との連携による現地体験型の学習会などである。また、次年度の活動計画の立案と運営のために、在学生など6名と教職員2名からなるワーキンググループ（以下では「WG」と呼ぶ）を立上げた。

2016年度事業では前年度の活動の枠組みを引き継ぎながら、好評であったボランティア活動の現場体験や法人・行政との連携を視野に入れた活動を中心に、学生講演会（同窓会主催）、子ども日本語教室への訪問学習、公開講演会および地域貢献活動報告会を実施した。これらの活動については本書の中で詳細に報告する。なお、上記のように、本年度の活動においても、WGがその企画、運営のみならず、取りまとめ全般についても実施した。

学習センターにおける地域貢献の今後のあり方や具体的な取組みに係る様々なご意見を、それぞれの活動における質疑応答やアンケートの回答の中でいただいた。それらに加えて、WGメンバーから指摘があった意見や感想などを分析し、整理することにより、今後の活動の方向性を浮き彫りにすることが本報告書の大切な役目であるとの思いから取り纏

めを進めた。この3年間の活動の総括として足りない部分もあろうが、この報告書から学生の皆さんの地域貢献活動に対する認識や求めるものを辿ることにより、これからの取組みの視座が見出されることを期待したい。ここが次のステップを目指す地域貢献活動の起点と位置付けられれば望外の喜びである。

最後に、2016年度の活動に関するWG打合せ会は計7回に及ぶほか、数えられないほどのメールでの意見交換を重ねた。また、年度をまたいで報告書の編集・発行にもお付き合いいただき、それぞれ担当した活動について報告書原稿の執筆をお願いした。ここまで到達できたのはボランティア活動の経験豊かなWGメンバーの皆様のご尽力、ご支援の賜物である。WGメンバーの皆様について氏名（敬称略）を以下に記載し、心からお礼申し上げます。

石川由子
俵 秀作
松藤文代
横井武彦
横山深雪
吉田瑞樹

また、3年間の活動は大学の学長裁量経費Ⅲの支援を受けた。各年度のプロジェクト名は、それぞれ2014年度が「学生による地域貢献活動の実態把握とそれをベースにした人材育成」、2015年度が「地域貢献活動に関する情報の提供と交換場の構築」、2016年度が「ボランティア活動への参加促進と活動組織の立上げに向けて」であった。ここに記載し、感謝の意を表するものである。

第1章 2016年度の活動記録

2016年度は10月に訪問学習会、11月に公開講演会、2017年2月に活動報告会の三つの活動を行なった。以下に、その概要、受講者の反応などを整理して報告する。なお、これらの活動における参加者へのアンケート調査や企画、準備及び運営についての詳細は、第3章添付資料の1) アンケート結果と2) WG 打合せ会の記録を参照いただきたい。

1) 訪問学習会

2016年10月9日(日)に名古屋国際センターへ、「日本語の分らない子どもたちに日本語を教える」ボランティア活動の現場を訪問する「訪問学習会」を実施した。その実施内容、参加者の感想およびまとめと課題は以下のとおりである。

【訪問学習の内容】

- ① 募集定員を20名、募集期間を8月2日～31日とし、機関誌「しりあい」及びチラシ等で参加者を募集し、最終的に定員丁度の20名の応募があった。
- ② 当日は、午前9時に名古屋国際センター1階に集合した。参加者を事前の希望どおり日本語を教える対象児童別に「小学生低学年グループ」「小学生高学年グループ」および「中学生グループ」の3班に分けた。初めに、名古屋国際センター職員より、概要説明があり、その後、各グループに分かれ、10時より11時30分まで、ボランティア活動の見学及び教えることを体験した。最後にアンケートを記入し、午後12時30分に解散した。

【参加者の感想】

- ① 自分一人では一歩踏み出すのが大変ですが、このような機会を設けていただいて参加しやすかった。
- ② 体験談を聞いているよりも、実際に現場に来てみると全体の様子がよく理解できた。
- ③ 日本に来た外国人の子どもがどのように苦勞しているか、頑張っているかをとてもよく感じる事ができた。
- ④ 子ども一人一人の言葉のレベルが違うので、多くのボランティアの必要性を感じた。
- ⑤ ボランティアを続けていく意味が何なのかをボランティアさんの姿から学べた。

【まとめと課題】

この訪問学習会に参加することで、実際の「地域貢献活動」がどのように行われているかを肌で感じてもらったこと、またさらにこれを機に、ボランティア活動に興味を持ち、今後の活動の手がかりにしてもらえたものと思う。

反省点としては、応募者数が予想していたより少なめであったこと、またその内訳において、ボランティア初心者が少なかったこと、男性の応募者に高齢者が多かったことなどから、この活動に対する広報が不十分であったのではないかとと思われる。今後は、いかに広く学生全体に働きかけていくかが課題であろう。

2) 公開講演会

2016年11月27日(日)に中京大学ヤマテホールにおいて、2団体による公開講演会を実施した。その講演内容およびそれらに対する受講者の反応は次のようなものであった。

(1) 名古屋市社会福祉協議会

講演は名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンター所長中村弘佳様に「ボランティア活動を始める人へのメッセージ」という題でお話をいただいた。

【講演内容】

①名古屋市社会福祉協議会の使命および同協議会のボランティアセンターの役割

②ボランティア活動の原則

A. 自発性・自主性 B. 社会性 (公共性のある活動) C. 無報酬性

③なぜボランティアが必要か。

A. 既存の制度やサービスでは「地域のさまざまな課題」の解決が困難

B. 自助・互助・共助・公助における互助への期待

④ボランティア活動は誰でもできる。

⑤お互いさまの気持ちで

A. ボランティア活動は、お互いさまの気持ちのあられ

B. 支え・支えられる (世の中持ちつ持たれつ) ことで、Win Win の関係に



「活動がやりがい、生きがいに。結局自分のためにもなる。」

⑥はじめの一步を踏み出そう、そして共生社会の創造を目指そう。

最後に、ボランティア活動について相談する窓口としての「名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンター」および「名古屋市市民活動推進センター」の紹介があった。

【受講者の反応】

この講演会の内容が、ボランティア活動の意義や、基本的な事柄が主であったので、「序章的なお話でなく、具体的なお話を期待していた」とか「ボランティアに関心がある人が多いので、こういった話ではなく、具体的な話が欲しかった」といった主旨の意見もあった。ただ、放送大学関係者で、「意欲が高まった」と回答した方が現在ボランティア活動中の人で75%、現在は休止中の人で86%、ボランティア未経験者で57%であり(参照:p26)、未経験者評価よりも経験者評価が高かったことは、活動を継続する中で、自分の活動を原点に還って見直す必要性をこれらの数値は物語っており、今回の講演会はその意味でも一定の評価ができるものと思われる。

同時に、上記のような意見も首肯できるところであり、それらに応えるために、事前の内容検討と講演者との打合せとに、十分な時間をとる必要があったと思われる。

(2) 半田市教育委員会生涯学習課

半田市教育委員会生涯学習課教育主事の笠井香里様から「半田市のゲストティーチャー制度について」のテーマで講演いただいた。

【講演内容】

半田市の生涯学習は下図に示すように、自分づくり、ひとづくりをベースにまちづくりへつなげるものである。ゲストティーチャー制度はその基本的な活動となるボランティア制度で、市民が講師となり、経験した分野や専門分野、得意分野についての講座を半田市に登録し、依頼者の求めに応じ開催するボランティア講座制度である。学びたいひとと教えたいたいひとをつなぐ制度として平成 12 年から発展してきた。講師は個人のみならず、平成 26 年度からは企業も 5 社登録され、平成 27 年度に実施されたゲストティーチャー活用状況は合計 751 件ののぼり、平成 29 年度の登録講座数は 184 件となった。公開講演会では、笠井教育主事から、半田市のゲストティーチャー制度の背景、成立ち、仕組み、めざす方向性などについて講演していただいた。ゲストティーチャー講座からの発展形として「学びの継続」のための“社会教育団体”の立ち上げが推奨され、年間 2～3 団体／35 講座～40 講座に至ったことが報告された。



第 2 次半田市生涯学習推進計画【改訂版】より引用

【受講者の反応】

わかりやすい、良い仕組みだ、成功事例、学校を中心にした活動が良い、自分の市町村でもできそうなシステムだ、などゲストティーチャー制度を、具体的事例を紹介しながらの説明が好評であった。受講者の内、「現在ボランティア活動中」の方からは、「意欲が高まった」の評価が 100%、又、「以前ボランティア活動を経験した」方からは 72%の方から「意欲が

高まった」との反応となった（参照：p28）。講演により制度や理念が具体的にイメージできたこと、ゲストティーチャー講座から社会教育団体への移行推奨など、半田市の生涯学習の基本理念が受講者によく伝わったことが伺われた。



名古屋市社会福祉協議会



半田市教育委員会生涯学習課

3) 活動報告会

2017年2月11日（日）に中京大学ヤマテホールで実施した活動報告会の中で下記2団体からそれぞれ講演と活動内容を紹介いただいた。団体概要、講演内容、受講者からの声の概要は以下の通りである。

(1) メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン 名古屋支部

メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン名古屋支部事務局の加藤里美様に、団体の目的・

活動・ボランティア内容についてご説明いただいた。

【講演内容】

メイク・ア・ウィッシュは、「難病と闘う子どもの夢をかなえる」ことを唯一の目的とした国際的なボランティア団体である。メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンは、世界各国共通の規範を基に活動を行っており、財政的な支援を受けず独立した運営を行っている。夢実現の全ての費用及び運営費は、寄付やイベントおよびグッズ販売収益を活動資金に充てている。

目的と活動内容については DVD を上映し、ボランティア内容についてはパンフレットや手作りポスターを使用された。

また、すでに愛知学習センターで協力を実施している古切手や書き損じはがきの回収についても、説明していただいた。

【受講者の反応】

「感動した」、「限りある生命の DVD を見て泣いた」、「すばらしい活動を知ることができ、夢の大切さを知った」、「グッズがよかった。子供に夢が大切なことがわかった」など、DVD を上映した講演内容や個別ブースでのオリジナルグッズ展示は高評価であった。「私でもお役に立てることがありそう」、「何か寄付できるものがあればサポートしたい」、「活動手段をもっと広げられるのではと思う」など、具体的なサポートを考えている回答も得られた。すでに愛知学習センターで実施している、古切手の回収に協力している方の参加もあった。アンケートの結果は、「とても興味がある」が 34%、「少し興味がある」が 52%であり（参照：p 34）、「以前からボランティア活動してみたい分野だった」との回答からも非常に関心が高いことが分かった。

ただ、講演時間が 20 分と短かったことや、オリジナルグッズの販売を希望する声も会場で聞かれた。

(2) 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT の吉川剛史様より、団体の目的・活動内容などについてパンフレットおよびパワーポイントを使用して説明いただいた。

【講演内容】

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（以下 PLAT）は、豊橋市が東三河市民のための演劇・舞踊・音楽等の芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図るために開館。運営方針は、①個性ある劇場として芸術創造と芸術文化の振興を促進、②教育普及活動の推進と市民の芸術文化活動の拠点、③安全・安心・快適な劇場空間の提供、④文化芸術の振興を通じ地域へ貢献、⑤『劇場、音楽室等の活性化に関する法律』の規定する劇場としての使命、⑥新しい貸館対応の提案の 7 つである。

受講者からは、演劇という分野での活動に興味を寄せられた。講演では PLAT の地域貢献活動についてファシリテーター養成講座について紹介があった。本講座は PLAT が

持つ専門家との連携により、豊橋市の小中学校などへの出張講座を行うもので、演劇、ダンス、音楽を通じて子供たちの表現力や感性を引き出していくリーダー役としてのファシリテーターを市民から育成するものである。ファシリテーター講座には豊橋市民ばかりでなく、市外、県外からも参加者がある。

【受講者の反応】

アンケートの回答には、「演劇は観るものという印象が強いが、今回のように参加する能動型の活動は初めての経験であった」や、「ボランティアは福祉系というイメージがあるが、それを払拭する新鮮さを感じた」などの意見があった。また、多くの方がファシリテーター制度に参加しておられる様子に感動したことがコメントされるなど、楽しみながら活動できそうなことへの期待感が伺われた。アンケートの集計から「とても興味がある」の割合が14%、「少し興味がある」の割合は52%で、関心を持たれた方も多い結果であったが（参照：p 35）、一方で、芸術に係る活動ということで少し距離感をもたれた参加者もおられたようである。



活動報告会

引用・参考

メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン 団体紹介パンフレット

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT ホームページ <https://www.toyohashi-at.jp/>

第2章 今後の地域貢献活動の進め方について

1) これまでの経緯

放送大学では2013年度から地域貢献活動が全国的な取組みとして取り上げられた。大学本部には地域貢献研究会が組織され、また、学習センターの活動を支援するため、特別経費「学長裁量経費Ⅲ」が学習センターにおける地域貢献活動にも配分された。愛知学習センター（以下、愛知SC）における地域貢献活動は遅れること1年で、2014年度にスタートした。

表-1 2015～2016年度の活動の位置付け

	2015年度	2016年度
1. 情報提供	チラシ等の掲示 パンフ等の配架	チラシ等の掲示 パンフ等の配架 HPでの学生の活動紹介
2. 知識・スキル等の 学習や活動紹介など	【公開講演会】 生涯学習と地域参画	【公開講演会】 ①名古屋市社会福祉協議会 「ボランティア活動を始める人への メッセージ」 ②半田市教育委員会 「ゲストティーチャー制度について」
	【面接授業】 地域社会の現在	【2活動団体の紹介】 ①メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン 名古屋支部 ②穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
3. 経験者の話を聞く	学生講演会（4名）	学生講演会（3名）
4. フィールドワーク	【体験学習会】 海上の森での学習会 間伐等の体験	【訪問学習会】 外国の子どもたちに日本語を 教える体験

これまでも述べたように、第1年目の2014年度は、ボランティア等の活動実態と愛知

SC への要望等を把握するため、在学生へのアンケート調査とヒヤリング調査を実施した。その分析結果から、2015年度からの2年間については、学生からの要望が多かった以下の1~4の活動を中心に進めることとした。

1. 適切な地域貢献活動に関する情報を提供する。
2. 地域貢献活動に関するスキルや心構え等の講演会を行う。
3. 地域貢献活動に参加した経験者の話を聞く場を設ける。
4. 希望者（在学生、卒業生）を募って、グループとして地域貢献活動を体験する。

そのため、2015年度と2016年度に実施した活動は上記1~4の項目に対応して、前掲の表-1のように整理することができる。3年間の活動の中で、WGメンバーとの意見交換、各活動におけるアンケート調査、参加者との質疑応答、学生から届いたパンフレットやチラシなどから、多様な意見や情報を収集することができた。それらを参考にして、学習センターの活動の中で見出された成果と課題を以下に整理する。

2) 活動を通して見出された成果と課題

2014年度の在学生へのアンケートは、学生の地域貢献（ボランティア）活動との係りを知る上で貴重なデータであった。アンケートの回収率は17%と低いが、分析結果からは①回答者の多くは活動経験があること、②経験者は活動の継続を強く意識していること、③未経験者も活動への参加意欲が高いこと、などが指摘できる。とくに、経験者は複数の分野で活動をすることも珍しくないことが知られた。したがって、学生の中には活動経験が豊富で、すでに地域の活動において中心となって、またリーダーとして活躍されている方から、活動に参加してみたい気持ちはあるが踏み出せず、躊躇している方まで、ボランティア活動への係りには相当幅があることが分かった。このような実態が、上述した学習センターへの4つの要望に投影されていると推察される。以下に、活動を通して見出された、今後の活動のあり方の検討につながると考えられる成果と検討課題を示す。

- (1) 実施した各活動は学生の要望を土台にして組み立てられたことから、アンケートの評価はどれも良好であった。とくに、現場に出かけ、ボランティアの指導のもとで活動を体験するものは高評価であり、これからの活動への関心の高まりを予感させる結果であった。この活動をより充実させ効果を上げるため、参加者への事前情報や予備知識の提供、活動団体との綿密な打合せに加え、終了時における意見交換には十分な時間の確保が必要であることを指摘したい。
- (2) 講演などの内容は満足のものであったと評価されるが、今後、活動のイメージを膨らませるために、講演内容には現場での実例を数多く取り込んだ構成にすることへの要望は非常に強い。また、ボランティア活動への姿勢や態度を理解し身に付けられるように、講演や授業などの座学と、学習した内容を現場で体験することを一体化した活動も検討する余地がある。

- (3) NPO 法人、地方自治体、社会福祉協議会などによる多様な活動を紹介することにより、ボランティア活動に関する情報の所在を示し、相談窓口へのアクセスに対するハードルを低くした。今後、愛知 SC 内での情報掲示やパンフの配架とともに、たとえば、経験豊富な学生をボランティア・コーディネータとして位置付け、相談窓口を務める方向を模索することも考えられる。なお、講演会や報告会における団体の紹介において、ブースでの展示物や資料を見ながら対話する形式は、活動内容の理解を促進し、参加への抵抗感を軽減する効果があると考えられる。
- (4) 愛知 SC が実施した地域貢献活動への参加者は、どちらかといえばボランティア活動を経験している学生が多い傾向があった。そのため、ボランティア活動未経験の学生への声掛けなど、参加者の裾野を広げることについての工夫が望まれる。そのとき、地域や町内における身近な活動、寄付系のボランティアなどの紹介や課題、さらには地域のニーズ分析と活動内容の関係、活動している人の動機・やりがいなどの実態、地域性の影響について知りたいなど、ボランティア活動に関する現状分析や情報提供への要望は依然強い。
- (5) 地域貢献に関する活動団体・組織のあり方については、次のような検討課題が指摘された。この3年間の活動は学生と教職員で組織したワーキンググループ（以下、WG とする）が中心となって、活動を企画立案及び運営した。予算を伴う活動であったこともあり、活動の責任の所在は学習センターにあるが、活動内容の具体化はボランティア経験のある WG メンバーに依存するところが大きい。そのため、上述した (1) ~ (4) の成果や課題とともに、活動の準備・実行・まとめまで時間と労力を要することから、WG メンバーへの負担を意識する必要もあることが分かった。このような教訓を踏まえて、今後、持続的に活動を展開することを目指す場合、改めて次の2課題の枠組みを具体的に検討する必要がある。
- ① 学生で構成される活動団体の形態、活動の目的及び内容
 - ② 活動団体と学習センターの連携・協働のあり方
- なお、活動団体はサークルや同好会のようなメンバーを中心とした閉じた活動というより、学習センターの在学生、卒業生及び修了生に働きかけ、包摂しながら活動のネットワークを拡大する方向を目指し、地域で活動できる学生を増やすことにより地域社会とのつながりを構築する方向が求められる。

3) 今後の活動の方向性について

上述した成果と課題を踏まえながら、今後の活動の大枠を描き、方向性に関する議論の足掛かりにしたいと思う。

愛知 SC における、これまでの具体的な活動を表-1 に示したが、これらは学生への情報提供と現場体験などを通して、活動参加に向け一歩踏み出せるように橋渡しをする機能を果たしてきたと総括できるであろう。それを模式図として表すと、図-1 のようにまとめら

れる。

愛知 SC (WG) は地域でボランティアに係る活動を展開している、多様な組織・団体・地方自治体等と学生の間に入り、活動の参考になる情報に加え、関連する学びと体験の場を提供する活動を進めてきたと考えられる。このことは、取組みについての多様な要望や多様な関与のあり方を求める学生の要望に応えるもので、活動を始めたばかりの愛知 SC (WG) の立ち位置として、橋渡し機能は妥当であったと考えられる。このことは、各活動の際に実施したアンケートにおいて良好な評価を得ていることから知ることができる。そのため、この機能は活動の基盤として、今後も堅持する必要があると考える。それは、現在もボランティア活動に関心はあるが、参加することをためらい、迷っている学生のみならず、活動への参加者や協力者を求めておられる組織・団体にとって、相互のつながりを生み出す機会として期待できるからである。今後、ICT を活用した情報交換・情報共有に積極的に取り組むとともに、その上に立って地域と連携した活動を展開することが望まれる。

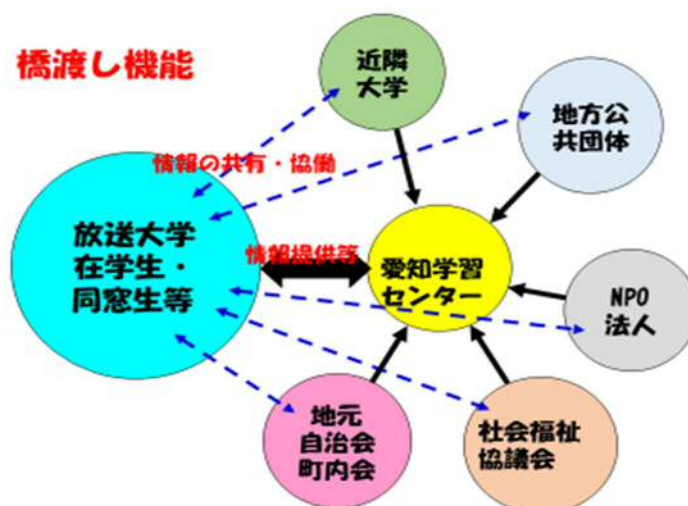


図-1 愛知 SC と地域の団体・組織等との連携

図-2 に概念的に示したように、この 3 年間は図中の右下方にある、学生からの要望も強く実現性の高い活動をベースに展開してきたが、将来は横軸にある、現時点では実現性が低く、また連携が求められる左上方向へと踏み出すことが求められるであろう。

図-2 には時間軸が入っていないのは、現時点ではどのような組織で、どのような活動を、どの時点で開始するかについて見通しを示すことは難しいからである。その時期は前記の橋渡し機能を軸とした活動を推進し、積み重ねる中での合意形成と、活動を通して培った地域の団体・組織との連携の実績などに依拠するものとする。

次に、活動を行なう主体についてその輪郭を考えたい。これまでの活動は在学生・修了生・卒業生（以下、学生と呼ぶ）と愛知 SC との協働で進められてきた。しかしながら、活動を継続的に展開するために、今後は学生主体へと軸足を切り替える方向を検討することが望

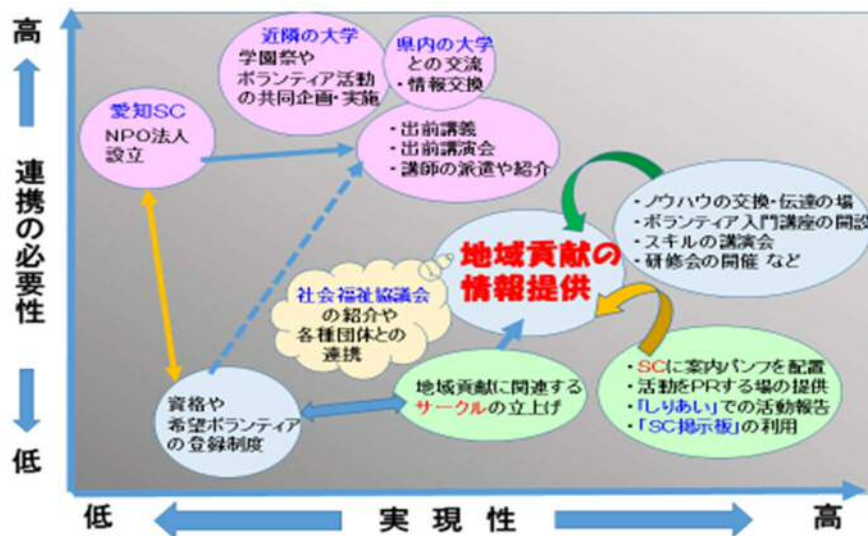


図-2 学生の要望に見る活動組織と活動内容の位置づけ

まれる。ボランティア経験のある学生が中心となって、地域での活動経験を活かしながら、学生の目線と自由な発想のもとで活動を企画し、実行する方向へ舵を切ることを模索してはどうだろう。幸い、卒業生・修了生も含め、愛知 SC には多くの活動経験者がいるので、活動団体を作ることは可能であると考えられる。

たとえば、愛知 SC がボランティア活動に関心がある学生に集まってもらう場を作り、活動経験者から活動の楽しさ（生きがい）、抱えている課題などの活動実態について情報提供するとともに、意見交換することにより、その中でボランティア活動に係る現状認識と意識を共有し、一緒に活動できる仲間やつながりを見つけることから始めてはどうだろう。そのような集まりを重ねる中で仲間意識が培われることにより、自発的にボランティア活動に参加する学生の輪が生まれ、それが活動を行なう仲間として収斂するのではないかと考える。その仲間が愛知 SC のボランティア活動を担うグループに発展すればと考える次第である。その中で、放送大学の社会人学生らしい活動を検討し、実施に踏み出すのが今後の方向ではないだろうか。

愛知 SC はそのような活動団体・組織の相談役的な位置づけとし、学生団体の活動を対外的に保障し、活動しやすい環境や条件を整備することにより活動を支援する立場が望まれる。少子化、超高齢化、格差などの問題を抱える今日の地域社会では、共助の精神がますます重みを増し、ボランティア活動への期待はこれから一層高まって行くものと考えられる。様々な意識、経験を持つ仲間を募り、社会人学生らしい発想と地元で詳しい学生が地域に寄り添って活躍できる団体・組織の立上げと活動を期待したい。

第3章 添付資料

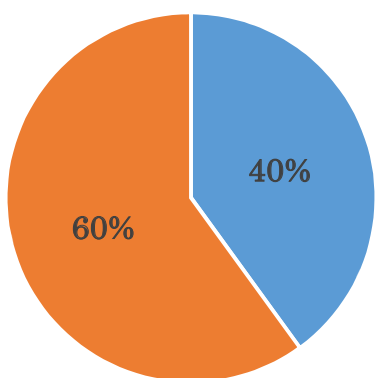
- 1) アンケート結果
 - (1) 訪問学習会
 - (2) 公開講演会
 - (3) 活動報告会
- 2) WG 打合せ会の記録
- 3) 学生講演会への支援

1) アンケート結果

2016年度に実施した三つの活動では、参加者の活動への意見、感想、要望などを聞き取り、今後の活動に活かすため、アンケート調査を実施した。以下に、アンケートの質問ごとに整理した結果と文章でいただいた意見などのほぼすべてを記載し資料とした。ただし、受講者からの意見のうち文字の判読が困難なものは、WG内で協議判断し掲載した。

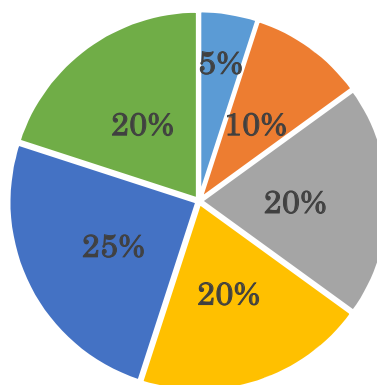
(1) 訪問学習会

質問A 参加者性別



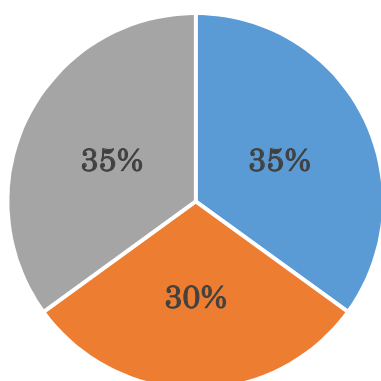
■ 男性 ■ 女性

質問B 参加者年代



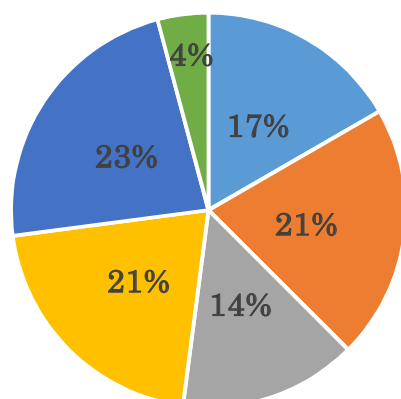
■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

質問C 参加グループ



■ 小学生低学年 ■ 小学生高学年 ■ 中学生

質問D 参加動機（複数回答可）

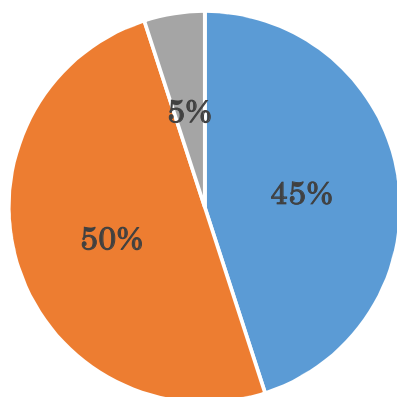


- 国際協力に興味があった
- 日本語を教えることに興味があった
- 在日外国人サポートに興味があった
- ボランティア（地域貢献活動）の現場を見たかった
- 子ども達と関わることに興味があった

質問Dに対する参加者コメント

- 放送大学バーチャルキャンパスでの案内を見て。
- 日本語教育を必要とする子供が愛知県に多いということ。安全な街のためにも日本語の教育は必要との思いがあった。ボランティアの現状を知りたかった。

質問E 国際センター職員からの モチベーションについて

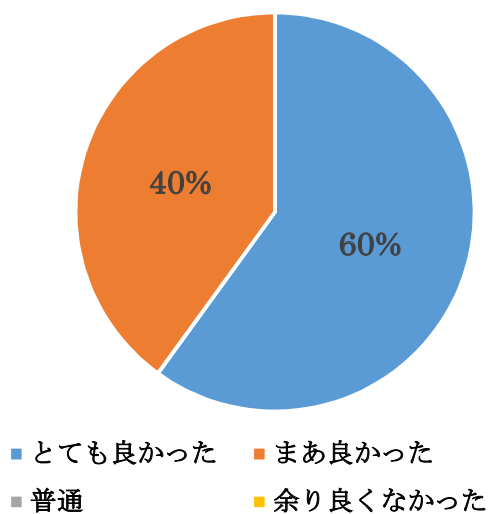


- とても良かった
- まあ良かった
- 普通
- あまり良くなかった

質問Eに対する参加者コメント

- 東海地方にいても、国際センターについてよく知らないものなので。
- 日本語のわからない子どもの現状がわかった。
- 名古屋の外国人・日本語を必要としている人・活動などが助かった。
- センターの仕事内容の一端を知ることが出来た。
- 現状がわかったので。

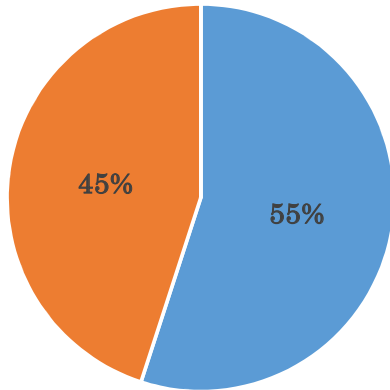
質問F 今日の訪問学習会に参加して（全体を通じて）



質問Fに対する参加者コメント

- 自分の日本語も怪しいが、モノカルチャー的な均質社会においては、分からない事ばかりなので。
- 生徒さんの日本語に対する興味がひしひしと伝わって来ました。
- 子ども自身の持つ問題や素の姿にふれることが出来た。
- 他言語を学ぶ必要がある子供たちのレベルがまちまちで、多めのボランティアでのサポートが必要とわかった。
- 普段は大人の話し相手をしているので、子供に教えることを経験できてよかった。
- 自分一人では、体験できなかった。
- やっぱり百聞は一見にしかずと言える（いちぶではあるが）。
- 副詞や形容動詞をどのように表現したら良いのか自分の力の足りないことが分かった。
- 相手は何を求めているのか？どこまで理解しているのか確認理解すること、大切だと思った。体験をしていきなり入ってしまってよかったのかどうか・・・。
- 日本語の使い方一般的に用いるものと学校で教える内容が異なっている事が分かった。
- 外国人サポートの大切な役割をになわれていると思った。
- 自分の勉強にもなる。
- 自分自身も勉強になった。

質問G 日本語を教える事を 体験してみて

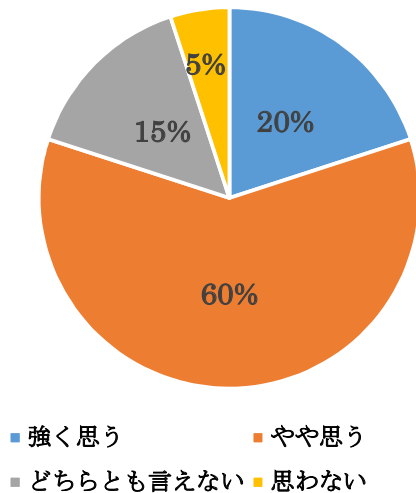


- とても良い体験ができた
- 良い体験ができた
- どちらとも言えない
- 余り良い体験はできなかった

質問Gに対する参加者コメント

- NPO、ボランティアといえども、責任ある活動なので、未経験のままでは何もできないので。
- 日本に在住の国際人（子共らですが）に直接、接することができた。
- ボランティアを続けていく意味が何なのかをスタッフさんの姿から学ぶことができた。
- なかなか1人ではいきなり参加はしづらいので良い機会でした。
- 教育の体験ができたこと、複数の人の学習者に興味をもってもらうには？をいつも考える必要があることがわかった。
- 日本に来た外国人の子供がどのように苦労しているのか、がんばっているのかをととてもよく感じる事が出来た。
- 日本語ボランティアの一端に触れられた。
- 国際貢献ができた。
- 皆さん教え方がとても上手で生徒の方も楽しく学んでいる様子だった。ボランティアの現場を見たのは初めての体験だった。
- 初めて知ることがたくさんあった。

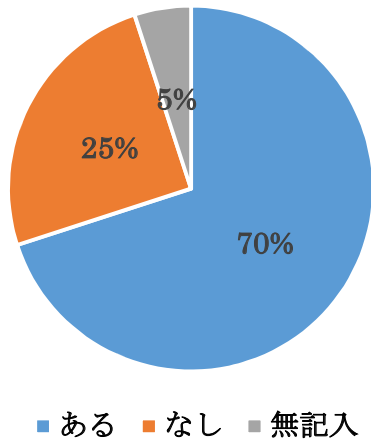
質問H 今後、このような日本語の分からない人達に日本語を教える事に関わりたいと思うか



質問Hに対する参加者コメント

- 関心はあるが、子ども向けか大人向けかで、自分の適性があるように思う。
- まず、何もわからない、語学もできない者でも、遂にぶっつけでやってみることがよかった。またそれができるだけの受け入れもしてもらえて、よかったと思う。何事も未経験のときに、何を経験できるかは重要なので。
- 日本語を教えるという職業に興味があります。
- 卒研を来年やるため時間の余裕が来年度はないので。
- 実は強く思う気持ちもありますがフルタイムで働いていると時間のやりくりが難しいこともあり②を選んだ。
- 住んでいる地域で機会があれば。
- 教育内容に絞って、人数もしぼって？まだ大人の方が自分にとってはいいかもしれないと感じた。
- 気持ちはあるがスケジュールが合わないかもしれない。
- おそらく日本語を学びたい子どもたちはもっと多いと思うので、少しでも助けになれば。
- 他に活動があるから。
- 大切なことだから。
- 時間がない。疲れる。
- 自分も日本語をもっと勉強しなくては。
- あたり前にできていることを人に教えることで、改めて日本語のむつかしさを実感したから。

**質問 I 今まで、ボランティア活動
(本学とは関係のない地域貢献
活動) に参加された経験**



質問 I に対する参加者コメント

- 「森づくり」「森あそび」のプログラム作成から実施まで。(例) ナイトハイキング等。地元子ども会と一緒に地元鎮守の森にて自然体感ツアー実施。
- 難病のNPOで講演の受付や誘導、調理実習のサポート。自治会の書記と災害炊き出し、子どもの自由研究のサポート。(上記2つはすでに退会しています)
- 災害時語学ボランティアに登録している。緑災害ネットワークで活動している。青年海外協力隊経験あり。
- 環境サポーターとして保育園に行っている。一昨年サポーター養成講座受講。活動は昨年から。里山保全教育として、クイズ、劇、遊びで1時間のプログラムを実践。
- 姫路市文化国際交流財団による「日本語ひろば」にて、日本語学習支援を1回/週、90分現在1年経験しています。
- 科学館で展示室ボランティア。
- 図書館ボランティア(整理、読み聞かせ、語り)。
- 地域の将棋教室で子どもを中心とした将棋指導のお手伝いをしている。(昨年7月から)
- 福祉実践教室。小中学校への出前授業。
- バリアフリーなまちづくり。
- 地域に於いて中学校で総合学習に参加活動している。
- メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン名古屋支部にてイベントスタッフや事務作業。

質問J

本日の「訪問学習会」全体について、気づかれたことや感想、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

●参加されている子ども達は、欠席あり、遅刻ありでかなり自由。他動的な子や、無言の子がいてビックリ。慣れるのにひと苦労あり。初参加なので戸惑うことが多かったが、様子、雰囲気分かり良かった。

●本日の学習の中心は、ドリルが九九集とゲーム学習の2つでした。しかし（特に私にとっては）ゲーム（今日はトランプ）を生徒と先生達で皆でやりましたが、ルールがよくおもいだせていず、他の先生方の助けが有り、何とかやれた感じでした。

●素の子どもとは？学年に比した発達は？というところとその子のできないところや足りないところを見極めることは大切で、スタッフ側の誘導だけでなく、その子に合わせて、伸ばすこと。そして、今日見れなかった部分（その子が他の子との交流や居場所になることやもっと大きい学年ならではの悩み）も見据えて支援することが大切だなと思いました。

●大変良い機会でした。名古屋市は在住外国人や外国にルーツを持つ子供達が多いと知りました。今後、何らかの形で貢献できると良いと考えます。又自分自身の日本の文化の知識も必要と感じました。

●図書館、文庫、子育て支援（託児）、読み聞かせ。

●ひとりひとりレベルが違うので、多くの人手が必要なことを感じた。小学校で教員をしていたが、ブラジルの子、韓国の子に接したことがある。韓国の子たちには、市が通訳の補助員をつけていて半年くらいで補助の必要がなくなっていくようになった。ブラジルの子たちは、教務主任が取り出し授業をしていた。低学年ほど早くなじむが、ガムをかんで登校したり、ピアスをつけていたりするので分団の子たちとトラブルが生じがちだった。（異文化の理解をさせる機会となったが。）

●外国人の方々が学校や社会コミュニティに多くなってきたと思います。その中で言語や文化の違いからトラブルもあります。「外国人」に接しにくいと日本人は思いがちですがこの体験で、外国人の方々が本当はすごく頑張って日本に慣れようと、言葉も理解しようとしていることがよく分かりました。日本人がどのように外国人と共存していくのか、考えるよい機会となりました。子供は子供、国に関係なく頑張る姿を見て、応援してあげたいと思いました。

●自らが子供らと直接接して、授業(?)を進めて行けたのはとても面白かったです。半面、1つしか、体験できなかったのもっと他の学習方法とかもみてみたかったし、ボランティアの方々のやり方を複数パターン見てみたかったです。小学校以前の子供たちには、どのようなサポートがあるのでしょうか？

●百聞は一見にしかずのことわざ通り。実際に体験して少し分かった。先ず参加してみることが重要だということを再認識しました。

質問 J

続き

- ボランティアの方の真面目な態度。
- 実際に生徒たちは必要だと感じ来ていたと思うので、それに見合った内容になったかどうか心配。貴重な時間なので。
- 絵を用いて指導しているが、絵が分かり難く答えられないものがある。副詞、動詞、形容詞一緒に教えていたが、分けして指導した方が良かった。👉をクチと教えていたが、クチビルでもある。人体の全体図を御指導してはいかがかと思った。
- 体験談を聞いているよりも、実際に現場にきてみると、ぜんたいの様子がわかり、理解できた。
- 想像していた以上に高レベル、高難度のボランティアだという思いを強くした。日本語を全くわからない子供たちへの日本語教育に行政としてもっと力を入れるべきである。
- ボランティア活動をされている方たちへの今日の私たちの「訪問学習会」での見学・体験の受入れ連絡がなかったように感じ、私たちの対応にとまどわれているように思いました。大丈夫だったでしょうか。
- 子供達の学習意欲の高さに驚いた。また、日常生活に必要な日本語のスキルと学習の時に必要な日本語のスキルに差があり、教える側も難しいと実感した。現在の学習状況が自分達の頃と違うこともあり、日本語を教える以前に学校での学習状況も把握する必要があると思う。日本語特有の音読み訓読みや濁音など、普段あたり前に使っていることを言葉で説明することは非常に難しいと感じた。
- 子どものレベルに合わせた教育は、時にマンツーマンが必要。グループでの教育の組み立て、フォローなど。考えなければならないことがいっぱいのような、教科書でわからないことも etc. は教えたりはしないのか・・・？

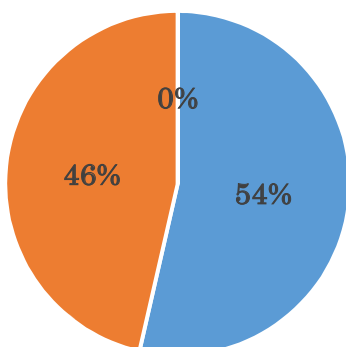
質問K

愛知学習センター主催の「地域貢献活動」で、今後取り上げてほしいテーマや具体的な活動内容がありましたらお書きください。

- 地域に出かけて行って、何かやってみる。学習ボラでも、自助グループ見学でも。あるいは、文化財、古文書のある場、発掘や古民家など。
- 今回と同様の内容があれば、募集に参加させてもらいたいと、思います。
- ボランティアを続けていくことにあたり、続けていくコツやスタッフさんとの関係のとりかた。忙しくて対人ボランティアできなくても、できる間接ボランティア（寄付とかetc.）などの紹介。
- 自分が災害ボランティアをやっているのもそのテーマで。
- 今回のようなボランティア体験はとてもよいと思います。自分一人では一步踏み出すのが大変ですが、このような機会を設けていただけると参加しやすいです。
- ”多文化共生”の中でも様々あると思うので、又、他のジャンルも見てみたい（災害ボラとか、医療系のボラとか）。
- 保育関連、小児病棟などでのボランティア活動に参加できる機会があれば嬉しいです。
- 日進の認知症カフェの見学会。
- 今回のような学生が体験できる活動を増やすと、地域貢献活動へのハードルが下がり、学生の参加が多くなると思う。そのために連携できる団体を確保するために、学生からの情報提供も受付できるといいと思う。

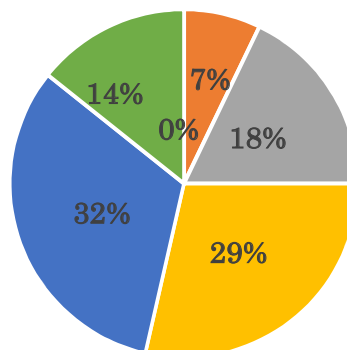
(2) 公開講演会

質問① 参加者性別



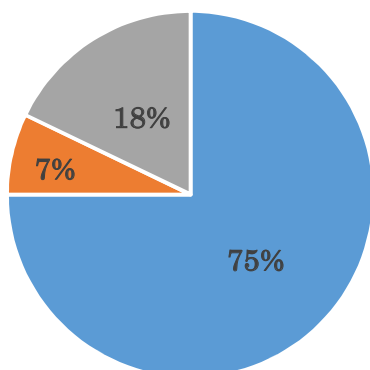
■ 男性 ■ 女性 ■ その他

質問② 参加者年代



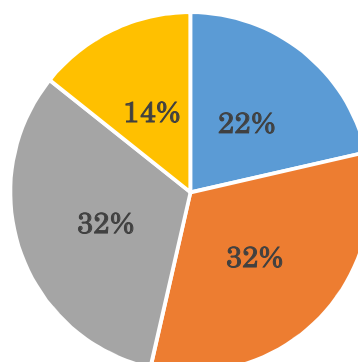
■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

質問③ 参加者と放送大学の関係性



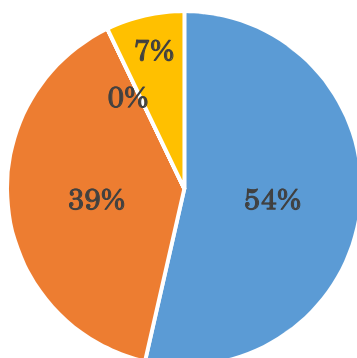
■ 放送大学生 ■ 放送大学卒業生
■ その他 (学生、社会人)

質問④ ボランティア経験



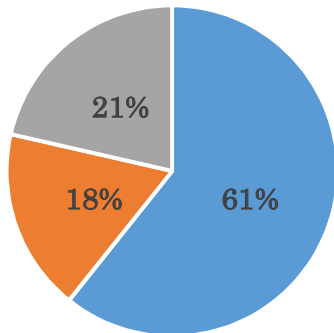
■ 現在活動中 ■ 以前経験した ■ 全くない ■ 未記入

質問⑤ ボランティアへの関心



■ 大いにある ■ 少しある ■ ない ■ 未記入

質問⑥ 第1回講演 (名古屋市社会福祉協議会)



- ボランティアへの意欲が高まった
- 以前と変わらない
- 未記入

質問⑥に対する参加者コメント

<選択肢：ボランティアへの意欲が高まった>

● ボランティアの定義が良く分かったが、それが活動の広がりを障がっているのではと思い、自分なりの係りを考えてみたい。

● ボランティアを受けたり、参加するのが当たり前に育ち、育てている。地元へ戻ってきたという事は、名古屋の活動が自分に合っているのだと思う。仲間を増やしたいと思う。

● 序章のお話でなく具体的なお話を期待していたので残念△

● 裾野を拓けることは大事と改めて思う。まずは、フードバンク、こども食堂などの活動にかかわってみたい。12/4 セカンドハーベスト、12/9 今池のフォーラムに出てみます。

● 具体的なお話だったから。（ボランティアの申込方法など）

● 社協の活動内容に理解が深まった。

● 大学内のボラセンについて自発性を学生が持つにはどうすればよいか更に知りたいと思った。熱心なとりくみが伝わった。

● 話が具体的に聞けたので。

● 会社でもボランティア活動に参加していることもあり、理解力深まった。

● 何ができるか考えてみたい。

<選択肢：以前と変わらない>

● ここにきている人たちは（参加者）それなりにボランティアに関心がある人が多いと思うのでこういったありきたりの話ではなく、具体的な話が欲しかった。5と6の中のところは何もふれてないので、ここを本当は話してほしかった。

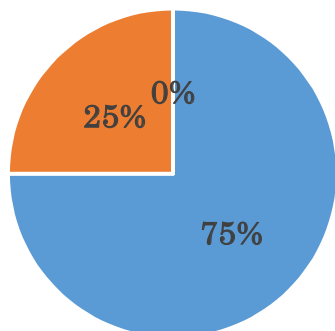
● 現在、仕事、家庭、放送大学の学生と忙しくてなかなか心と時間考える余裕がない。

<選択肢：未記入>

● （以前より少し変わった）

質問⑥-1 第1回講演 (名古屋市福祉協議会)

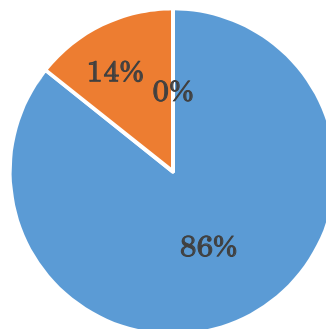
質問④で「現在活動中の人」の回答



- ボランティアへの意欲が高まった
- 以前と変わらない
- 未記入

質問⑥-2 第1回講演 (名古屋市福祉協議会)

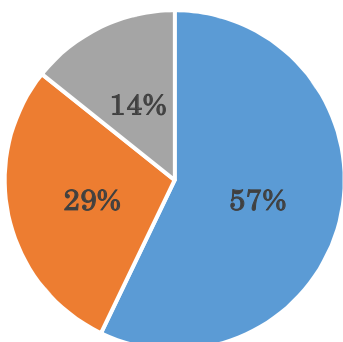
質問④で「現在休止中の人(以前経験した)」の回答



- ボランティアへの意欲が高まった
- 以前と変わらない
- 未記入

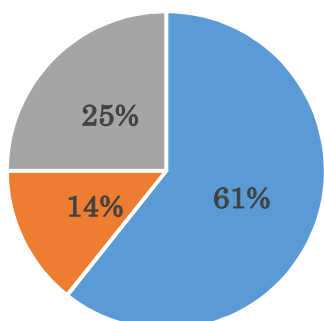
質問⑥-3 第1回講演 (名古屋市福祉協議会)

質問④で「未経験の人」の回答



- ボランティアへの意欲が高まった
- 以前と変わらない
- 未記入

質問⑦ 第2回講演 (半田市生涯学習課)



- ボランティアへの意欲が高まった
- 以前と変わらない
- 未記入

質問⑦に対する参加者コメント

<選択肢：ボランティアへの意欲が高まった>

- ききやすく、とても興味を持てるお話でした◎
- 半田がこんなにガンバっていたのかとおどろきました。さすが先生、お話が上手です。
- 詳しい資料があり、よくわかった。
- 「半田市」の成功例が楽しそう。
- ゲストティーチャーの育成はおもしろそうで、とりくみやすいと思った。
- すばらしい仕組みと活動内容でよかったですと思います。
- ゲストティーチャー制度というものを初めて知りました。
- とても興味深い制度だとおもいます。子供たちは幸せですね。
- 学校を軸にスタートして点で、面白い取り組みと思う。
- 第二の故郷に半田市があり、ゲストティーチャー制度のしくみは知らずに名古屋に住んでいるが、移住を考えていた。市役所の方が情があって親切。教えることに前向きになれる。

<選択肢：以前と変わらない>

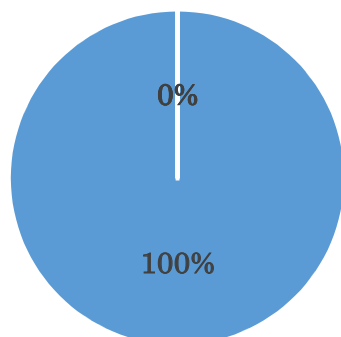
- 半田市に在住、在勤でもなく、独自制度なので半田市に縁のない人にはこの制度はあてはまらないが、学校とのかかわりかたは理解できた。（車がないので行くことはムリです）
- 現在、仕事、家庭、放送大学の学生と忙しくてなかなか心と時間考える余裕がない。

<選択肢：未記入>

- (以前より少し変わった)

質問⑦-1 第2回講演 (半田市生涯学習課)

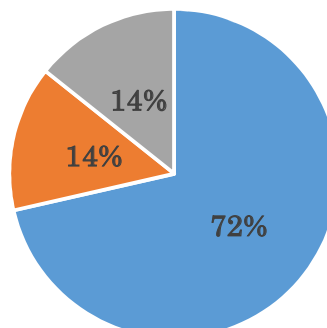
質問④で「現在活動中の人」の回答



- ボランティアへの意欲が高まった
- 以前と変わらない
- 未記入

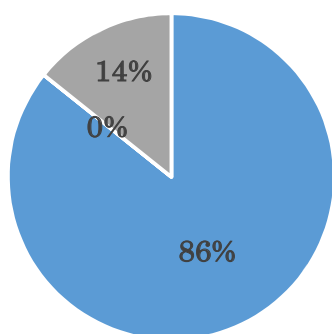
質問⑦-2 第2回講演 (半田市生涯学習課)

質問④で「現在休止中（以前経験した）の人」の回答



- ボランティアへの意欲が高まった
- 以前と変わらない
- 未記入

質問⑧ 第1回&第2回講演 の活動について



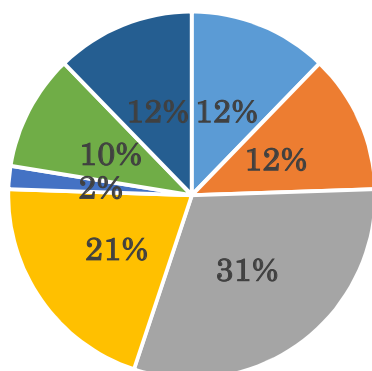
- 自分の居住地はどうなのか興味をもった
- 特に興味はない
- 未記入

質問⑧に対する参加者コメント

<選択肢：自分の居住地はどうなのか興味をもった>

- ボランティア参加呼びかけをみたがその内容がよくわからない。
- 豊かな人生になると思うので将来何かしらボランティアをやってみたいと思う。
- 名古屋でもゲストティーチャーのような制度はないのか？社協は調べていますがなかなかコレと言ったものが見当たらないし（内容、時間の制約とも折り合うもの）。
- 学校に地域の人に関わるのはいいことと思う。
- 名古屋で子どもをガールスカウトに入れているが、保護者としても私も養成を受けているが実践の場が半田市の方が受け入れてくれるとおもったり、ニーズがあるのかが不明・・・。
- 半田市のとりくみについては図書館でもできるのではないかと思った。
- 半田市のゲストティーチャー制度は他市の模範となる。
- 名東区在住で近いこども食堂が、天白・長久手・日進・川名といずれも遠くまだ不参加。

質問⑨ ボランティア活動をするうえでの障害



- ボランティアの意義が十分理解できていない
- ボランティアをしたくてもどこへ行って相談したらよいか分からない
- 自分にあつたボランティアがあるのかどうか分からない
- 自分の生活リズムがみだされるのではないかと不安である
- 一緒にするお友達がみつからない
- 無償ボランティアは個人負担がかかるから
- その他 ()

質問⑨に対する参加者コメント

<選択肢：ボランティアの意義が十分理解できていない>
 ●意味をとりちがえて、正しい方を排除する。

<選択肢：自分の生活リズムがみだされるのではないかと不安である>
 ●フルタイムで就業しているとなかなか踏み出せなかった。

<選択肢：無償ボランティアは個人負担がかかるから>
 ●個人負担は多少はやむをえないと思ってます。交通費を出してくれる団体だと、収入をもらうことになり勤め人の人は副業になるのでは・・・という不安があるため。
 ●フルタイムで就業しているとなかなか踏み出せなかった。

<選択肢：その他 () >

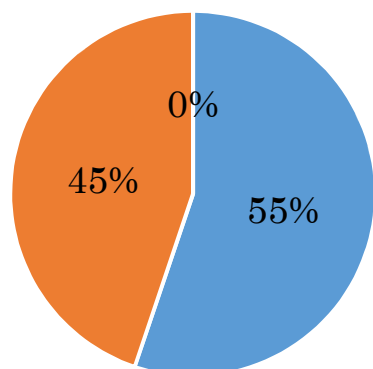
- 以前ボランティアをやめて（身内の反対などもあり、あと仕事とかに）その時私をボランティアに動かしていた感情は「メサイアコンプレックス的なものでは？」と気づき、自分がそれを乗り越えていないと考えているため。
- 今、忙しくて気持ちと時間の余裕がない。
- 必要とされるスキル、知識と自分が有しているスキル、知識が本当にマッチングするかどうかわからない。
- 有償めあての人にのっとられた。
- ボランティアに対する責任や立ち位置が不明。

質問⑩ 愛知学習センター主催の「地域貢献活動」で今後取り上げてほしいテーマ

- 大学内のボラセン、ゲストティーチャーについて実際の活動に結び付けられるとよいとおもった。
- 近代史的なもののテーマで勉強会みたいなものはできないでしょうか？
- 「認知症」のサポートについて 「子育て」のサポートについて。
- 放送大学でどの科目をどのようにとれば地域のどのような貢献活動にこうけんできるのかシラバス等で表示して頂けるとありがたい。
- どうしても、年齢層が高く、地域の賛同が少なく感じた。子どもを連れてきてはいけないだろうか。迷惑をかける子でもないし、私自身も犯罪者でもないのにそのような空気を感じる。個人としてはたくさん先生はいると思う。クレームではなくて。
- ⑥⑦⑧は答えにくいアンケートだね。
- 名古屋市、半田市のボランティアに関することを紹介していただいたが、私の住居する市（岡崎）に於いても同じようなシステムを持っている。
- こども食堂、フードバンク活動をぜひに！！ 金融リテラシーの向上（高い手数料でさほど有利でない商品を防ぐ知識） 株主優待で生活していく方法（私ですが） ふるさと納税（いい制度おトクなんですけど・・・）はあまり愛知県や名古屋市の主催では言いづらいですね。
- 学習センターで認知症サポーター育成講座はできないか！ できればクラス会を重ねるのはやめてほしい。学友会の人など来れないので。

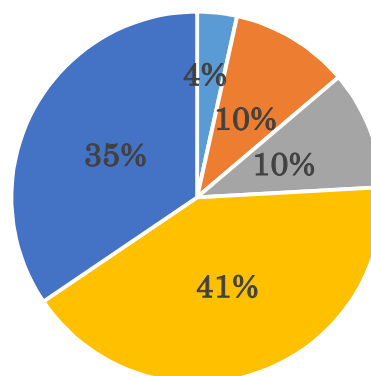
(3) 活動報告会

質問① 参加者性別



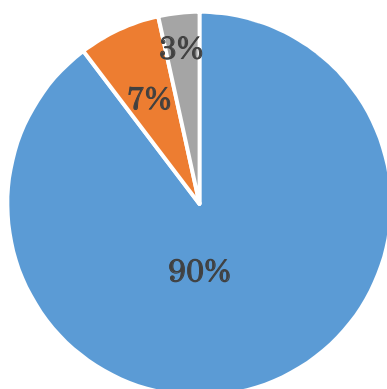
■ 男性 ■ 女性 ■ 回答不可

質問② 参加者年代



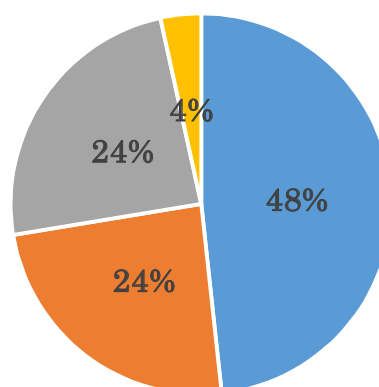
■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

質問③ 参加者と放送大学の関係性



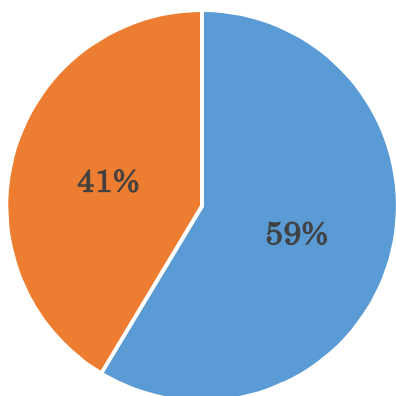
■ 放送大学生 ■ 放送大学卒業生 ■ その他(社会人)

質問④ ボランティア経験



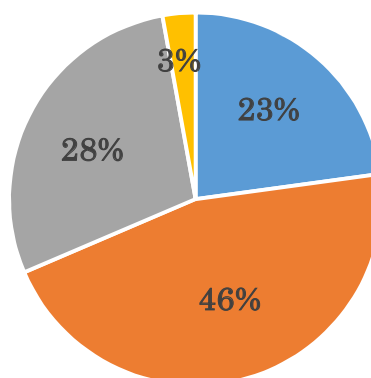
■ 現在活動中 ■ 以前経験した ■ 全くない ■ 未記入

質問⑤ ボランティアへの関心



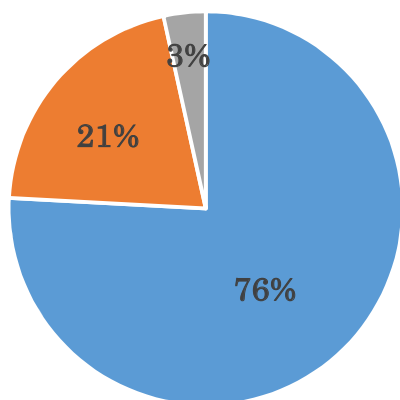
■ 大いにある ■ 少しある

質問⑥ 愛知学習センターでのこれまでの地域貢献活動への参加



■ 訪問学習会 ■ 公開講演会 ■ 今回初めて ■ 未記入

質問⑦ これまでの地域貢献活動への取り組みについて



■ よいと思う ■ どちらでもない ■ 未記入

質問⑦に対する参加者コメント

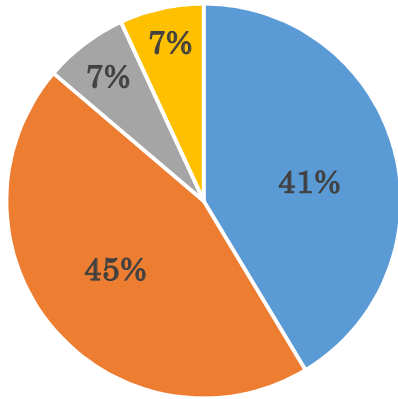
<よいと思う>

- ボランティア活動を知るキッカケになる。
- 放送大学と地域貢献についてのまとめ問題提起。
- 大学であるが幅広い年齢層の人が参加できる点でオリジナルな活動ができる。
- ボランティアに関する情報提供の為にどうしても必要に思う。
- セオリーどおりにすすめていてよいと思う。
- 体験、情報提供、報告会と一連の流れができていた。内容がわかりやすく良かった。
- 通常の大学の若者が参加するだけでなく幅広い年齢の人が参加できる活動だと思いました。

<どちらでもない>

- 私は高齢者です。当然、現在数種のボランティアをしており、これ以上増やせないので愛知学習センターとしては情報提供にとどまるのは当然かと思えます。
- 地域貢献活動は分野、活動範囲が広く、よく解らない。
- 訪問学習会の後に、継続したボランティア活動の必要性を感じた。
- 広報をもっと多くする事 多くの参加をいただく機会が少ない。

質問⑧ これからの地域貢献活動への取組について



- とても興味がある
- 少し興味がある
- どちらでもない
- 未記入

質問⑧に対する参加者コメント

<とても興味がある>

- ボランティアの個別の活動だけでなく、その根底にある絆を地域で作るための活動を研究し、取り組んで欲しい。
- 少しでも社会貢献する機会が得られる。

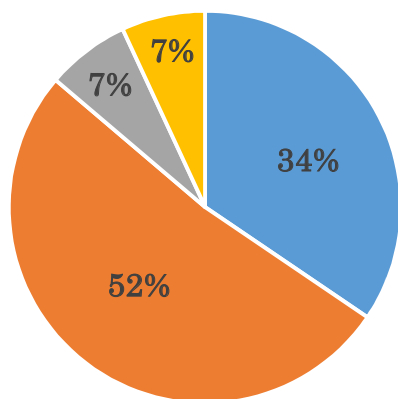
<少し興味がある>

- これまで活動した経験など いかせそう。
- 自分にできる事があれば参加したい。
- 卒後のことの方が大切な気がする。卒後細く長く続けられる支援を。
- 現在の住まいから近いので興味があれば参加しやすい活動についての情報が得られると思いました。

<どちらでもない>

- 所長の話のとおり、情報提供が限度だと思う。

質問⑨ メイク・ア・ウィッシュオブ
ジャパン名古屋支部



- とても興味がある ■ 少し興味がある
- どちらでもない ■ 未記入

質問⑨に対する参加者コメント

<とても興味がある>

- 感動しました。
- 限りある生命のDVDを観て泣いた。
- 素晴らしい活動を知る事ができ夢の大切さを知りました。
- こちらの活動は以前テレビでみた事があります。今回お話を伺って、私でもお役に立てる事がありそう、と思いました。

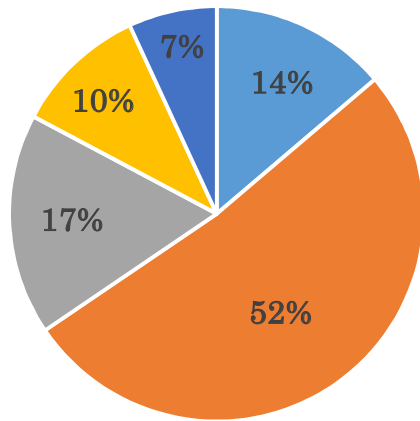
<少し興味がある>

- 思い、主旨は理解できますが、……、規模、レベルの高い活動であり身近に感じない。
- 理論は素晴らしいと思うが、活動手段をもっと広げられるのではと思う。
- 今、大学通じて切手をお渡ししています。何か寄付できるものあればサポートしたいと思います。
- 以前からボランティア活動してみたい分野の1つだったため。

<どちらでもない>

- グッズがよかった。子供に夢が大切なことがわかった。

質問⑩ 穂の国とよはし芸術劇場
PLAT



- とても興味がある ■ 少し興味がある
- どちらでもない ■ あまり興味がない
- 未記入

質問⑩に対する参加者コメント

<とても興味がある>

- 地域に根ざした活動として、将来の可能性が大きいと思われる。
- 「生きてゆくなかでの3つ目の場所」というのが良いと思う。
- ファシリテーターの制度に多くの方々の参加がすばらしいと思いました。
- 演劇というと観るもの、なのですが（演じるセンスがないので）、このボランティアならハードルが下がると思いました。楽しそうです。ボランティア＝福祉系、というイメージを持っていた私には新鮮なお話でした。

<少し興味がある>

- 一般人として、受動型の演劇ではなく「能動型」への参加の世界観に感動しました。
- 市民参加型事業展開。

<あまり興味がない>

- 名古屋市内在住なので……。名古屋でもそういうシステムがあればよいんですが……。
- 名古屋から遠いので活動に参加しづらいため。

質問⑪

愛知学習センターにおける「地域貢献活動」で、今後取り上げてほしいテーマや具体的な活動など。地域貢献活動に関しご紹介いただける団体など。

- 大きな団体ではなく、むしろ、地域で市民の活動（小さい）活動の紹介、問題点を知りたい。
- つくっていく苦勞、問題点を中心に！
- 「地域貢献」をもっと広くとらえたい。町内会活動に参加し、地域美化清掃に参加することからなら、だれでもやれる。そこから広めていく。やれることをやっていく……。
- 地域貢献のサークルつくるのに賛成。
- 分野が多岐に渡るので、どのような支援が可能か検討要す。
- 地域によりボランティアに関わり方が異なる場合があります。放送大学の学生が同町にどのような方が見えるのか知りたいと思いますが？
- 環境保全に関する地域貢献活動。日本山岳会東海支部猿投の森の会、森づくり活動、まづ放送大学愛知学習センターでどんなサークルをつくるか検討会があれば参加したい。
- 現在の地域のニーズを分析し、地域貢献活動として、何が求められているかを提案して欲しい。（共に研究したい）そのテーマを各自で持ち帰り、地域の活動に展開できると考える。
- センターに参加している学生の中には、ボランティアに参加している人がかなりいると思う。どんな活動に参加しているのか、学生間で交流する機会ができないものだろうか？講演形式でなく、クラス会での交流のよううちとけた機会があれば、もっと輪が広がるのでは？
- 老人カフェの実施。手話講習会。（中村区手話サークル）社会福祉協議会。
- 寄付系ボランティア。仕事と学業で忙しいので、物品やクオカードや図書券の使用済を寄付できるところ、あるいは不要品（いただいたもので個人の好みに合わないもの）を必要としているところ。個人的に調べて持っています……。意見交換もう少し時間ほしかった。
- 環境活動（名古屋市環境サポーター制度）（幼児小学校に出むいて環境の大切さを広報する）。
- 成功（？）しているボランティア団体の強み等を分析することで活動している人の動機、やりがいなどをPRするとボランティア参加したい人が増えるかな、と思いました。
- 放課後の子どもたちの見守り？+子育て中の母子の集まる場所+お年寄りの井戸端会議の場所をトータルにコーディネートすることで地域に貢献できないか？という夢を持っています。

2) WG 打合せ会の記録

ここでは、2015 年度後半に愛知 SC で招集設立された「地域貢献活動ワーキンググループ（以下”WG”）」の 2016 年度における活動の記録を時系列に記述する。ここに打合せ会の記録を添付資料として残すのは、活動のための企画、準備、運営の段取りの流れのみならず、報告書本文で取上げなかった意見、提案、アイデア等を保存し、今後の活動に資することを意図しているからである。又、この記録は打合せ会で出された意見や持ち寄った情報等をできる限り残すことにより、次回以降の打合せ会や今後の活動において、議論の経過や内容を確認し振り返ることができるようにとりまとめた。そのため、この資料は WG の打合せ記録であると同時に備忘録的な役割も持っている。従って、文章表現が報告書本文とは揃っていない箇所、報告書用に文章を加筆、削除などの修正を行った箇所があることをご容赦願いたいと思う。

WG は、2015 年 10 月末に所長が在學生、修了生等 6 名に対し WG 参加要請を行い、第 1 回打合せ会が 2015 年 12 月 22 日に実施され活動が開始された。最終の第 7 回打合せ会が 2017 年 3 月 5 日に実施された。構成は所長、在學生・修了生等 6 名及び事務局 1 名の計 8 名で、座長は所長、まとめ役は吉田が担当した。第 1 回打合せ会では、所長から WG の活動についての主旨及び概要説明があり、愛知 SC が 2014 年度に行った愛知 SC 所属学生・大学院生 2,978 名¹に対するアンケート調査及び面接調査に基づく調査報告書²が示す方向性や要望項目などを確認した。愛知 SC では 2014 年度から「地域貢献活動」をスタートし、2014 年度の調査報告書により、その後（2015 年度と 2016 年度を含め）の愛知 SC への要望事項や活動方向性が詳細に述べられている。

愛知 SC の 2014 年度、2015 年度、2016 年度の地域貢献活動の取組経過を以下に要約する。

- 2014 年度：学生の地域貢献活動の実態調査を行い、地域貢献活動の現況と課題などを明らかにするとともに、今後の取り組みの方向性を検討した。
- 2015 年度：2014 年度の調査結果に基づき、ボランティア活動に関する情報提供・発信、意見交換の場の提供などを中心に展開した。
- 2016 年度：2014 年度と 2015 年度における活動を踏まえ、2016 年度以降の地域貢献活動の目標とそれを達成するための具体的な取り組みを描いた。進め方は、地域貢献活動の WG を立上げ、その中での議論を通して計画案を作成し実行した。その推進方法は、ボランティア活動の経験がある学生が中心となって行った。

¹ 愛知学習センター平成 26 年度第 1 学期在席全学生数

² 2014 年度学長裁量経費 III 学生による地域貢献活動の実態把握とそれをベースにした人材育成 2014 年度報告書 2015 年 3 月放送大学愛知学習センター

WG 打合せ会は概ね 2 ヶ月に 1 回程度の頻度で行われた。構成メンバー居住地も、愛知 SC のある名古屋市ばかりではなく、愛知県内市町村や県外にも広がっていた。したがって、頻繁に集合し討議できる環境とは言えないものである。このため、打合せ会の議題が座長から発信されると、まとめ役がメール等で具体的に論点の投げかけを行い、事前の意見を求め、出されたコメントをリストアップし論点整理を行った。こうした事前資料も併せて打合せ会で討議を進め、議論を集約する方法を取った。事前にコメントを出し合い、必要なら事前にメールで議論を進めることで、問題点を事前に認識して打合せ会に参集し、限られた時間で概ね議論を集約することができたものと考えている。

冒頭に説明したように、WG の打合せ会は企画等を準備するため 2015 年度に開始しているので、2016 年度報告ではあるが、記録は 2015 年度の第 1 回打合せ会から掲載した。

第 1 回 WG 打合せ会 記録

日時：2015 年 12 月 22 日（火）13：00～15：00

場所：愛知学習センター4F 多目的室

出席：所長、俵、横井、松藤、吉田（メモ）

欠席：石川、横山、教務係長

<内容>

所長より添付レジメに従い検討事項の説明があり、WG メンバーは了解した。

1. WG メンバーの紹介と打合せ会の運営について

- ・WG グループは学生等 6 名＋所長＋教務係長の計 8 名とする。
- ・意見交換や連絡はメールを基本とし、緊急時は所長から WG メンバーへ電話連絡をする。

(1)WG の役割

- ・企画提案と活動の支援（実際の行動も支援してほしい）とする。学友会との連携もありうる。

(2)任期と運営

- ・2015 年度中に（2016 年度の）企画を行い、2016 年 4 月～5 月頃に大学に活動の申請をする（審査の採否に関わらず実施する予定である）。
- ・WG メンバーよりまとめ役 1 名決めたい（所長要望）。

2. これまでの愛知 SC の地域貢献活動について

所長からの説明に WG メンバーは了解した。

（WG メンバーからの意見など）

- ・野外活動時にはボランティア保険があるので、申し込み窓口などがあるとよいのではないかと（どこでボランティアしても必要である）。

- ・WGより現場と組み合わせた企画がいいのではないかと希望が多かった。
- ・企画を講座にするのはハードルが高い（講師招聘は費用が発生する）。
- ・ボランティア団体やNPO訪問の調整は多忙となることが予想される。
- ・ボランティア団体などから講師を呼ぶ場合も費用が伴う。

3. 今後の地域貢献（ボランティア）活動の内容や進め方について

所長からの説明にWGメンバーは了解した。

（WGメンバーからの意見など）

- ・昨年度の「海上の森における学習会」の事例を踏まえ、見に行く現場と連携してはどうか、との意見が出た。
- ・名古屋市内の学生が多いので、遠隔地ではなく、名古屋市内を活動対象にしてはどうか。
- ・（吉田の修論³では多文化共生に対し）教育、福祉、情報提供、起業、防災、国際協力の6分野を挙げている（吉田注記：NPO法人の設立趣旨の下記*17分野などが企画の参考になるものと考えられる）。
- ・企画する活動分野は、初年度については2つか3つに絞ったらどうか。
- ・（愛知SCでも）福祉・介護関係の学生は多く、この分野には人材が多いのではないか。

*（1. 保険、医療又は福祉の推進、2. 社会教育の推進、3. まちづくりの推進、4. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興、5. 環境の保全、6. 災害救助、7. 地域安全、8. 人権の擁護または平和の推進、9. 国際協力、10. 男女共同参画社会の形成の推進、11. 子供の健全育成、12. 情報化社会の発展、13. 科学技術の振興、14. 経済活動の活性化、15. 職業能力の開発等、16. 消費者の保護、17. 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡・助言・援助）

4. 当面のスケジュール（案）について

所長からの説明にWGメンバーは了解した。

5. その他

所長からの以下の説明にWGメンバーは了解した。

- ・第2回打合せ会は2月～3月（候補日以下のいずれか：2月27日（土）、2月28日（日）または3月6日（日）とし、時間は13：00～15：00を予定）とし、後日、日程調整をする。
- ・まとめ役は吉田が担当することになった。
- ・現場と組み合わせた企画（案）は吉田がまとめる。

以上

³ 吉田瑞樹（2014）「グローバル経験シニア世代の地域貢献の可能性の考察—生涯学習はその入り口となりうるか—半田市の事例を踏まえて—」放送大学大学院修士論文

第2回 WG 打合せ会 記録

日時：2016年2月27日（土）13：00～15：00

場所：愛知学習センター4F 会議室

出席：所長、教務係長、俵、横井、松藤、横山、石川、吉田（メモ）

<内容>

第1回打合せ会の議事メモの確認を行なった。

1. 地域貢献活動の方向性を確認し、前回議事メモを承認した。
 2. 2016年度の活動に関する意見交換
- (1) 次年度の活動に関する意見交換

WGメンバー（6名）がそれぞれの提案について説明した。

<俵>

- ・名古屋国際センターに訪問し、日本語の習得できていない外国人の子供、大人に日本語を教える。
- ・子供（小・中学生）は日曜日午前中、50人ほどいる。中国・東南アジア出身者が多い。大人は、1日3回実施する。
- ・俵も過去3年程活動中である。マン・ツー・マンになることが多く、ボランティアの数が生徒より多くてよい。
- ・過去には大学生や高校生の見学もあった。20名くらいなら訪問可能か。

<松藤>

- ・名古屋鯉城会の「まちづくりの推進（河川の浄化作戦）」は参加者60歳以上、1つの会で300～400人参加者がある。参加の割り振りがある。名古屋市各区の鯉城会に参加協力の依頼がある。
- ・災害ボランティアセンターの（一人暮らしの方の）「災害救助支援」は被災後の支援ではなく、防災。港区では水に関する対応。防災コーディネーターから家具転倒防止などを学習し、装着の支援など行う。

<横山>

- ・イエローエンジェル
- ・岡崎市シビックセンター
- ・穂の国とよはし芸術劇場 PLAT=子供を遊ばせるファシリテーター：愛知学習センターでの説明会など可能か。デスクを置いて説明会を実施する？FacebookやTwitterを使ってWG活動について発信してはどうか。（別途、WGのコミュニケーション方法についての提案があった。）

<横井>

- ・岩倉市におけるユニバーサルデザインの普及促進活動を行なっている：岩倉市の小学校 5 校、中学校 2 校で出前講座実施中である。
- ・名古屋市内の愛知学習センター所属学生が多数いる社会福祉協議会の協力を確認済である（千種区、昭和区、緑区、天白区など）。

<吉田>

- ・訪問というよりは、愛知学習センターでの講演を考慮した提案（生涯学習組織 3 件、知多市市民大学、東海市市民大学、半田市生涯学習課）があった。市民大学は、自分づくり・人づくり・まちづくり、を目指しており、運営の課題や今後の方向性など参考になる。半田市ならば行政側の課題を聞くことができる。半田市ゲストティーチャー制度は放送大学学生にも参考になりそうである。

<石川>

- ・メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン 名古屋支部で活動している。事務局での庶務作業、イベントの手伝いなどを行なう。オフィスは名駅三井ビル 11F にあり、スペース的に多人数の訪問は困難か。チャリティマラソンやボーリング大会の支援などもある。愛知学習センターで支援作業を行うことができるほか、学習センターでの説明会も可能である。デスクを置いて説明会を実施する？

(2) 活動分野と活動団体・組織などの選出

- ・訪問先としては、定期的に活動が行われている団体とする。（→訪問時期は 9 月、11 月で、この時期でもやっていることが必要であると思われる。）
- ・提案内容から、訪問に適した団体と愛知 SC に来てもらい講演会などに適した団体があるので、訪問と講演ですすめてはどうか。
- ・学友会から所長あてに、学生講演会実施（講演者推薦）の依頼がある。
- ・WG が企画する活動としては、①第 1 回目（8-9 月実施予定）を現場訪問、②第 2 回目（10-11 月実施予定）を愛知 SC での講演会、③報告会実施の際に説明会を組み合わせる、の 3 回の活動実施が所長より提案された。
- ・具体的には、①名古屋国際センター訪問（俵起案）、②社会福祉協議会講演（横井起案）+ 知多市市民大学 or 半田市生涯学習課の講演（吉田起案）、③報告会に、ファシリテーター（横山起案）+メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン（石川起案）の説明会を加える、で進めることで大まかな企画案を決定した。
- ・仮実施時期 ①は 9 月 18 日（日）午前実施（例 9：30～12：00 訪問、現地集合・解散）
②は 11 月 13 日（日）又は 11 月 27 日（日）午後（1.5～2 時間程度）

③は12月17日（土）午後実施（項目5参照のこと）

（3）今後の進め方（役割分担など）とスケジュール

- ① は俵が名古屋国際センターに打診する。
- ② は横井と吉田がそれぞれ打診する。
- ③ は横山、石川が説明会依頼先へ打診する。

正式に依頼する段階では、所長が同行依頼する。

成果報告書については、カラー印刷などで外注せずセンター内でコピーすれば予算措置は不要である。活動実施の際に、アンケートなどをしっかり行い、活動毎にまとめをやっていけば、成果報告書をまとめることができるのではないかと。2016年度の成果報告書があれば、2017年度の活動グループへの発展的引き渡しが可能になる。

3. 2016年度学長裁量経費Ⅲの申請について

申請書は愛知SCで案を準備し、WGと相談しながら進める。

4. その他

（1）2016年度第1回打合せ会は6月中旬頃を予定する。

5. 所長と吉田で第2回打合せ会の詳細確認を以下のとおり行なった。

- ・現場訪問や講演会実施にあたっては、（地域貢献、社会貢献、ボランティア活動などのキーワードを含んだ）ストーリーやコンセプトがあるといいのではないかと。
- ・コンセプトに基づいて訪問先や講演依頼先との詳細を詰めていく方向性となる。
- ・放送大学で学んだことを生かすために体験の場を少しずつ提供することを目指す。背中を押す役割をする。
- ・放送大学は地域貢献や社会貢献のリーダー育成がミッションの一つであり、こうした方向性を視野に入れていく。
- ・講演会は2団体で実施する。それぞれ30～45分位の講演＋質疑応答で打診する。
- ・報告会が12月に設定されているが、講演会実施が11月13日又は27日で、報告会までの時間が短すぎる。最終報告会を2月にしてはどうか。具体的には2017年2月5日（日）へ変更したい。これにより、総括（成果報告書の作成）も2017年2月末までとする。

6. 上記1～5を踏まえ、以下確認事項と担当表です。

項目	日程	内容	担当者	備考
第 1 回活動現場訪問	9月18日(日)を予定したが、先方に打診の結果、懸念があることがわかった。以下の3代替案が提示された。	名古屋国際センター訪問、見学、活動への参加	俵	
	①9月18日(日) ②10月2日(日) ③8月21日(日)	所長外出OK 外出困難 外出困難		
第 2 回活動講演会	11月13日(日)又は11月27日(日)午後	社会福祉協議会講演依頼	横井	
		半田市などへ講演会依頼	吉田	
報告会日程	変更(説明会依頼先への確認)	12月17日(日)から2017年2月5日(日)へ変更	横山、石川	
予算関係	4月中旬までに申請書案作成(予算及び活動計画・趣旨必要)	愛知学習センター	所長、教務係長	上記の訪問先や講演先の確定必要 (俵、横井、吉田、横山、石川)
地域貢献活動ストーリー&コンセプト	予算関係作成までに準備	2016年度の地域貢献活動全体のコンセプトと、流れをストーリーにする。	たたき台を吉田が検討	

情報として、訪問団体、講演依頼先団体、報告会参加団体の①名称、②所在地、③連絡先(担当者)、④日曜日の参加可能かなどが必要となる。それぞれ担当者は、順次確認をお願いしたい。

以上

第3回 WG 打合せ会 記録

日時：2016年4月24日（日）13：00～15：00

場所：愛知学習センター4F 会議室

出席：所長、俵、横井、松藤、横山、石川、吉田（メモ）、事務局（事務長、教務係長）

<内容>

協議事項

配布資料1～資料7について、所長から説明の後、協議を行なった。

フォロー事項及び特記事項を記載する。4月24日配布資料の番号に基づきます。記載は協議順とする。

1 2016年度学長裁量経費（学習センター支援）の申請書について

- 公開講演会の開催場所については、メルマガの配信と公開講演会の内容次第で、大人数収容可能なヤマテホールも検討する必要があるが、経費もあるので所長に検討を一任する。

2-3) 公開講演会

横井、吉田が次回打合せ会（9月11日（日）13：30～15：30）で進捗を報告する。

2-4) 活動報告会

所長（総合司会）、横山、吉田3人で説明を実施する。

2-2) 「名古屋国際センター」訪問について～俵起案の「訂正版」

- 見学者は先着20名で、学習センター窓口直接申し込み又は電話申し込みとする。
- 募集期間は8月1日～8月31日、参加者への詳細案内は9月に入ってから送付する。
- 参加者は所長+事務長+WGグループ3名（横井、石川、吉田が参加、松藤は欠席）。
- 俵及び横山は、名古屋国際センターのボランティアとして参加。
- 20名の見学者については、体験希望のグループを事前に決めておく。現場ではどのボランティアに付くかを定める。
- チラシ、ポスター作製は、所長と俵で打合せし、7月中に事務局支援で完成させる。
- アンケート用紙：昨年の資料を参考に俵が起案する。
- 当日の役割分担

出欠係：事務（ロビー）で遅れてくる学生への対応も含む。

集合時注意事項の確認及び教室への誘導：俵

12時からの「まとめ」の進行：所長

Q&Aには、名古屋国際センターのスタッフの呼び込みが必要である。

参加者は、学生教育研究災害保険の加入のこと。

その他

- 次回打合せ（9月11日は30分遅らせて、13:30～15:30で開催する）
- クラス会など開催時に所長からイベント開催時の紹介などにより集客を図る。

<資料についての訂正>

- 9頁 (3)公開講演会項目は以下のように訂正する。

誤：名古屋社会福祉協議会

正：名古屋市社会福祉協議会

- 10頁、12頁、13頁は以下のように訂正する。

誤：メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン

正：メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン

- 10頁 活動報告会、備考欄の「5月中旬～」は削除する。

以上

第4回 WG 打合せ会 記録

日時：2016年9月11日（日）13:30～15:30

場所：愛知学習センター4F 多目的会議室

出席：所長、俵、横井、（松藤：一部参加）、横山、石川、吉田（メモ）、事務局（教務係長）

<内容>

協議事項

1. 活動の進捗状況の報告について

(1) 訪問学習「日本語の分からない子供たちに日本語を教えている現場を訪ねてみよう
について」

① 案内状の準備（資料1）

② アンケート用紙の準備（資料2）

訂正必要箇所

- 4頁の項目Gの選択肢④「余り」を「あまり」に修正する。
- 4頁の項目Hの質問が抜けているので復活させる。
- 5頁下部の削除＝アンケートは当日回収することとし、後日郵送はやめる
⇒「なお、アンケート・・・E-mail:aichi.sc@ouj.ac.jp」を削除する。

- ③ 参加者リスト（資料3）
 - 姫路 SC からの参加者と車イスでの参加者がおられる。
- ④ WG メンバーの参加者確認
 - 俵＝国際センターボランティアとして参加する。
 - 石川、横井、吉田、横山が参加予定、松藤は所用のため参加不可。
 - 現在定員 20 名のところ 19 名の応募があった。石川、横井、吉田、横山の順番で欠員補充する。

2. 活動における検討課題と役割分担について

(1) 訪問学習について

- ① クラス分け（資料3）
 - 俵より報告＝9月タームの申込者は 50 名の定員に対し、59 名受け入れ（内訳中学生：22 名、小高：18 名、小低：19 名）。実施時は中学生 1 部屋、小学生 1 部屋。中学生グループボランティア 19 名。
- ② 当日の役割分担
 - 国際センター集合（事務局＝8：30、WG メンバー＝8：45 時間厳守のこと）
 - 参加者の出欠確認、体験グループの確認・・・教務係長
 - 遅刻者の誘導・・・教務係長
 - 車イス補助・・・横山
 - 各会場への誘導・・・俵、横井
 - 4F リソースルームでのオリエンテーションは、名古屋国際センター職員による国際センターの説明で、当日の日本語ボランティア組織ではないため、この点留意する。
 - アンケート用紙の説明、配布、回収・・・吉田
 - 最後の研修会参加者のみのミーティング・・・所長
 - アンケートの集約・・・所長&俵で実施

(2) 公開講演会について

- ① 当日の役割分担
 - 受付（資料とアンケート配布）：松藤、俵
 - 司会は横井＋吉田で担当し、スケジュール含め横井、吉田で事前に検討する。
 - 講演者 2 名には所長室で控えてもらう。
 - 12：30～13：00 に講演者に PC などの確認してもらう。
 - 愛知学習センター PC の使い勝手や、講演者が PC を持参されるか等につ

いては、横井、吉田が講演者に確認し行なう（講演者が当日、PC の使い勝手に戸惑わないようにする）。

- アンケートの集約 ……横井&吉田で実施

(3) 活動報告会

- 発表団体名：「メイク・ア・ウイシュ」⇒「メイク・ア・ウィッシュ」へ修正する。
- 発表団体名：「穂の国豊橋芸術劇場 PLAT」⇒「穂の国とよはし芸術劇場 PLAT」へ修正する。
- 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（吉川氏）の講演内容については、活動主旨に対する方向性を調整するため、再度、所長と横山で吉川氏へ確認する。
- 上記の再確認及び、全体の報告内容、担当者及び時間配分の再構成が必要である。
- アンケートの集約 ……石川&横山で実施する。

3. 2017年度の活動組織や運営について（自由討議）

- 次回打合せへ繰り越しする。

4. 第5回打合せ会の日程

- 11月6日（日）13：30～15：30で実施する。

以上

第5回WG打合せ会 記録

日時：2016年11月6日（日）13：30～15：30

場所：愛知学習センター5F会議室

出席：所長、俵、横井、松藤、横山、石川、吉田（メモ）、事務長

<内容>

協議事項

1. 「訪問学習会」のアンケート結果について

- (1) 俵より分析まとめの概要について報告があった。
- (2) WGメンバーはまとめを読み、追加コメント等あれば、俵へメールで連絡する。
- (3) 俵は、WGメンバーからの追加情報など加え、2月活動報告会の発表用として簡略にまとめる。

2. 公開講演会の準備状況について

- (1) 半田市生涯学習課の講演者が、随員 1 名同行可能性あり。
- (2) 公開講演会アンケート（案）訂正箇所あり。
 - 項目②の 70 代に番号が抜けている。
 - 項目⑩に「地域貢献活動でご紹介いただける団体名や連絡先」の記入を追記する。
- (3) タイムスケジュールと役割分担
 - （公開講演会担当の）横井及び吉田は、12：00 頃より待機する。
 - 横井及び吉田は、講演者に、到着時事務局に声かけいただくよう連絡する。
 - 講演者が事務局に到着したら、事務局が所長室へ案内する。
 - ヤマテホールは講演者の機器チェック用で 12：30 に開錠する（事務長）。
 - 受付は 13 時～13 時 30 分（俵、松藤担当）
 - 司会開会～小休止まで横井が司会をする。
 - 休憩後～終了まで吉田が司会をする。
 - 「刈谷市教育委員会」→「半田市教育委員会」へ修正する。
 - 質疑応答で質問が出ない場合の為に質問を幾つか準備しておく（WG メンバー）。
 - 質疑応答時のマイク係（2 本）は石川＋横山が担当（横井、吉田）。

3. 活動報告会進め方について

- (1) 「活動報告会のスケジュール」（案）～資料 3～に用語統一：2 行目の「今期」→「今年度」へ修正する。
- (2) 2 団体紹介後、小休止（アンケート記入）を入れる。
- (3) 活動報告会アンケート案は石川＋横山で起案する。
- (4) 「しりあい」1 月号原稿（案）への修正項目
 - 冒頭文 2 行目：「ボラ ンティア」→「ボランティア」に修正
 - 「今期」→「今年度」
 - 「メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン」の後に、1 マス空け「名古屋支部」追加する。
 - 「個別説明」（ブースにおける上記 2 団体との意見交換など）へ修正する。
- (5) 今後の「地域貢献活動」における方向性
所長より説明があり討議した。
 - 愛知 SC の 2014～2016 年度の活動を集約する。
 - 放送大学本部の地域貢献研究会はすでに活動を閉じている。

- 愛知 SC の地域貢献における橋渡し機能は継続、深化が必要である。→今後の方向性の基盤と判断する（図 1）。
- 今後は学生中心の展開についても検討する必要性がある。
例：ボランティアサークルなどの立ち上げ
図 2 による高連携かつ低実現性への方向性
- 2017 年度は一旦、立ち止まって検討する時期ではないか？
- 開設 25 周年記念講演会を複数計画中である。
- 本テーマは引き続き討議を進める（本部、愛知 SC とも「地域貢献活動」に対するスタンスがやや不透明な状況となる）。

4. 第 6 回打合せ会の日程

- 2017 年 1 月 8 日（日）13：30～15：30 で実施する。

以上

第 6 回 WG 打合せ会 記録

日時：2017 年 1 月 8 日（日）13：45～15：45

場所：愛知学習センター 4F 多目的室

出席：所長、俵、横井、松藤、横山、石川、吉田（メモ）、事務長

<内容>

協議事項

1. 「公開講演会」のアンケート結果について

- (1) 横井・吉田より分析まとめについて概要の報告があった。
- (2) 「アンケートは現在、60 代、70 代だが、65 歳が境目として重要ではないか」、との提起があった。これまでのアンケートと同様に、60 代、70 代で活動報告会も進める。
- (3) 公開講演会参加者に 5 名の放送大学以外の一般参加者がおり、この分析ができないか。吉田が確認する。

2. 活動報告会の準備状況について

- (1) 配布資料は、複数ページ／枚なので、横へ行くのかタテに行くのか、プレゼンに各ページ表示があった方がよい。「放送大学」の表示位置がまちまち、所長資料「要望の内容と今後の対応」資料で、ボラティア→ボランティア、へ修正する。
- (2) 吉田・俵の発表分については「訪問学習会」分は俵＋吉田で、「公開講演会」は横井＋吉田で調整する。活動報告会における「まとめ」は中間段階で、「活動報

告会」アンケートを含めて最終的まとめ・提案が必要である。ボランティア活動参加による「生活リズムが崩れる不安」については、新しく取り組むことによる「新しい生活リズム」に慣れることが必要ではないか、との指摘があった。

(3) 2団体の活動紹介

- ① メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン名古屋支部～石川紹介
パンフレット配布の上、DVDで5分程度の説明を予定している。どういう風に参加いただくかについて、ボランティアにやっていただくことや主催イベントの説明がある。当日はボランティアが数名参加予定である。団体のグッズが存在するが、当日の販売は不可。パンフは2月7日までに事務局に届く予定である。①団体と②団体へ交替する際に、PC (Mac) の準備が必要となるので、ここで休憩を入れ、準備出来次第再開をアナウンスする。質疑応答は行わず、個別説明（ブース）で対応する。
- ② 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（赤字が正しい表記）～横山紹介
劇場紹介、市民プログラム紹介、小・中学校へ出向いてのWSなどを中心に説明する予定である。質疑応答は行わず、個別説明（ブース）で対応する。

2団体の紹介時間（各20分）では、「終了3分前」や「終了5分前」などの紙を出すなど時間管理をした方が良い。

(4) 総合討論

今後の取組みについての議論のみ行う。ここまでで時間が押している場合、時間調整が必要となる可能性がある。

総合討論後、参加者が席を立つ前にアンケートの依頼をアナウンスする。

(5) 個別説明（ブース）

(6) 当日の準備と役割分担

- ③ 集合時間：12：00 ヤマテホールに直接集合する。
- ④ 準備作業：パンフレット類を50部封筒詰め（全員で）を行なう。俵+松藤で受付する。
- ⑤ その他
 - パワーポイントは2月7日（火）までに所長へ提出してもらう。
 - パンフレット類は2月7日までに事務局到着のこととする。
 - 総合司会や総合時間管理を横井が担当する（各アナウンスをどうするかは再度確認が必要か）。

3. 活動報告会のアンケート案

- (1) ⑥⑦の「放送大学」→「愛知学習センター」へ変更する。

- (2) ⑦～⑨の選択肢は5段階へ変更する。
- (3) ⑩の文言訂正、愛知学習センター主催→愛知学習センターにおける、～活動がありましたら→具体的な活動を、団体名→団体などありましたら、に変更する。
- (4) 横山が変更を修正し、WGメンバーへ発信する。

4. 本年度のとりまとめ

- (1) どのようなレベルの「カタチ」にするか未決定である。
- (2) ①「訪問学習会」アンケートまとめ、②「公開講演会」アンケートまとめ、③「活動報告会」アンケートまとめ、を揃え全員で全体結果を確認し、提案事項や今後の方向性などリストアップしてはどうか。

5. 次回打合せ日程について

- (1) 3月5日(日)にWG第7回打合せ会実施する。
- (2) 最終的なまとめは3月以後になっても構わない。

6. その他

補足：WG第7回開催時間については、「打ち上げ会」に合わせ時間を遅らせることも検討する。

以上

第7回WG打合せ会 記録

日時：2017年3月5日(日) 15:00～17:00

場所：愛知学習センター4F多目的室

出席：所長、俵、横井、松藤、石川、吉田(メモ)

<内容>

議題

1. 地域貢献活動報告会のアンケート結果について服部所長より説明があった。
資料は「報告書」第3章の挿入資料となる。
2. 報告書の作成について
 - 1) 吉田より取りまとめ方針案説明があった。
 - 2) 「報告書」を作成することについてWGメンバーは了承した。「報告書」は印刷物作成及びHPにアップする。但し、印刷分の配布先は今後検討要。活動の関係先(名古屋国際センター、名古屋市社会福祉協議会、半田市教育委員会、メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン名古屋支部、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT)には複数冊配布必要か。2014年度報告書は300部印刷した。
 - 3) 目次、担当者、作成スケジュール、執筆要項の確認を行なった。
はじめに：所長が「これまでの取り組みの経緯と今年度の目標」を作成
第1章 紹介文(A4で1枚)を所長+吉田で作成

- 第2章 : 「訪問学習会」 紹介文 (A4 で 1 枚) を俵が作成
「公開講演会」 紹介文 (A4 で 1 枚) を横井+吉田で作成
- 第3章 : 「メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン名古屋支部」と「穂の国とよはし芸術劇場 PLAT」 紹介文 (A4 で 1 枚) を石川が作成する。
- 第4章 : 「WG アンケート」と活動参加者向けのアンケート 3 回分のコメントも合わせ、所長が整理、報告書に (今後の取組みに向けての提案として) 記載する文案となるコメントをピックアップする。
- 第5章 : 所長まとめ作成。集合写真は無しとする。WG メンバーの「感想」あるいは「編集後記」的文章を吉田が代表で作成する。

- 配布の原稿執筆要領 (案) に従い文書作成する。
- 第 1 章～第 5 章の冒頭紹介文は、初めて「報告書」を見る人がデータや内容を読み進める助けとなることを考慮する。
- 第 1 章～第 5 章それぞれの作成原稿は、各担当者が所長へ送付する。
- 「取りまとめ方針案」のアンケートデータは、データの重複 (円グラフと棒グラフ) が有るため、グラフで分かるもの一つに絞り資料頁を減らす。
- データやグラフは A4 ヨコ 2 頁分を、A4 タテ 1 頁にするなど頁を減らす。
- 円グラフの場合、境界にスキマや線を入れると白黒印刷にしても見やすくなる。
- 「報告書」原稿は当面カラーのままとして上記項目を反映し頁を削減し、HP 掲載はカラーのままとするが、印刷はカラー頁削減するなどについて検討する。
- コメントを求める質問に関しては、全てのコメントを残す。俵は「訪問学習会」アンケートコメント未記入分を追加する。
- 報告書作成スケジュール
 - 第 1 稿 : 5 月末予定、6 月 4 日 (日) 13 : 30～15 : 30 打合せ会で内容の確認調整を実施する。WG メンバーが作成する。
 - 第 2 稿 : (修正案) 7 月末 WG メンバーが作成する。
 - 報告書完成 : 8 月末 (学習センターにて最終稿作成)
- 実績報告書①で使用の名古屋市社会福祉協議会写真を事務局から横井へ送付する。
- 実績報告書①の修正項目
 - (2) 子ども日本語教室における訪問学習 (修正前) →子ども日本語教室への訪問学習 (修正後)
 - (4) メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン (修正前) →メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン 名古屋支部 (修正後)
- 学生 6 名 (在学学生、卒業生、修了) (修正前) →学生 6 名 (在学学生、卒業生、

修了生) (修正後)

以上

3) 学生講演会への支援

愛知 SC の同窓会は、毎年 2 回の学生講演会を開催している。各年度の第 1 回目の講演会は地域貢献活動に係るテーマで開催されている。そのため、愛知 SC は話題を提供する在学生、卒業生、修了生などの推薦、ポスターの作成・ホームページでの広報などに協力している。

2016 年度も以下のテーマで行なわれた学生講演会に協力した。なお、WG メンバー 2 名が講演を行った。その際のポスターを添付する。



学生講演会

第5回学生講演会

ボランティア活動に生きがいと 楽しさを求めて

主催：愛知学習センター同窓会

共催：愛知学習センター

日時：平成28年8月27日（土）13:30～15:30

会場：愛知学習センター 講義室2

1. 講演会

横井武彦氏／ユニバーサルデザインの普及活動について

吉田瑞樹氏／放送大学がきっかけになった、調べる楽しさ、
まとめる楽しさを活かして

宮川美樹氏／子育て支援を通して立ち上げた、NPO 法人の
活動及びその成果と課題

2. パネル討論会・質疑応答

講演者は在学生、卒業生、修了生です。

皆様の積極的な参加を
お待ちしております！



おわりに（編集後記）

第1回打合せ会から第7回打合せ会まで約15ヶ月に亘り愛知学習センター地域貢献活動ワーキンググループ（=WG）で活動した。言うまでもなく「地域貢献活動」や「ボランティア活動」が示す範囲は広範で同時に奥行きも深い。例えば地域貢献活動やボランティア活動と関係が深いNPO法人設立趣旨をみると17分野ある。そして、WGに参加した学生・修了生6名はいずれも異なる分野で（地域貢献）活動を行っており、経験や目指すものも当然異なる。年代も30代、40代、60代、70代と見事に散らばり、女性3名、男性3名である。このWGメンバーの多様性は所長がバランスを考慮した結果だと推測している。

WGは座長である所長と共に、2016年度活動イベント回数を3回と決定した。わずか3回の活動と思われるかもしれない。ところが前後のスケジュールや調整などを年間計画に落とし込むと、スキマ無く埋まるほど対応項目は多い。立案した年間計画が終了し、報告書の整理を行っている現在から振り返ると、WGは「NPO法人活動の前段階のようなものだった」と言えるのかもしれない。WGのスキルや、支援をいただく事務局の工数を理解し、活動計画を立案することとなった。計画イベントが魅力あるものになるように、参加団体の招請や事前打ち合わせやスケジュール調整が必要である。「営業活動」部分である。多くの在学生や一般参加者に多く来ていただくためには、情報拡散が欠かせない。機関誌「しりあい」への案内文投稿や、事務局から全面的に支援いただいたポスター、愛知学習センターのホームページ掲載もいただいた。SNSでの発信や、同窓会の集客活動などボランティアで行うなどのWGメンバーの存在は頼もしい限りであった。これらは「広報活動」である。個人の「人脈」も集客に大きく貢献したと思われる。WGはアンケート準備や準備段階から実施当日の役割分担、実施後のアンケート分析などを割り振って行った。WGメンバーがイベントの中で発表する場面もあり、苦戦しながらプレゼン資料を作成し発表した。立案したものを一つ一つなんとか実施できたとはいえ、反省点や改善点は多い。こうした点は、2017年度以後へ申し送りし、経験をつないで行けたら、と考えている。そしてNPO法人活動などへつながることが次の段階だと認識している。

15カ月間の長きにわたり、背景も年齢も目的も異なる多様なWGメンバーが議論を重ねながら、ここにたどり着けたことは、ひとえに所長の熱意や方向付けに負っている。又、貴重な経験をWGメンバー間でシェア出来たことの喜びや達成感も大きい。所長はじめ事務局の皆様、訪問学習会、公開講演会、活動報告会にご参加いただいた諸団体⁴の方々、WGメンバー全員に感謝します。同時に、愛知学習センターや放送大学における地域貢献活動の取組みが今後ますます発展することを願い、編集後記とします。WGメンバーの気持ちを代弁できたとは到底思えないが、ご容赦いただければありがたいと思う。

吉田瑞樹

⁴ 名古屋国際センター、名古屋市社会福祉協議会、半田市教育委員会、メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン名古屋支部、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

ボランティア活動への参加促進と活動組織の立上げに向けて

発 行 放送大学愛知学習センター

〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 101-2

中京大学センタービル 4 階

TEL 052(831)1771

<http://www.campas.ouj.ac.jp/~aichi/index.html>

2017 年 8 月

